

平成 29 年 6 月 26 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之  
(コード番号 : 8303 東証第一部)

## 男性社員のお小遣いは過去 2 番目に低い金額 -「2017 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について

～男性社員のお小遣い額は 37,428 円(前年比 445 円の減少)、昼食代は 590 円(同 3 円微増)で前年とほぼ同水準～

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,700 名を対象にした「2017 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

### 「2017 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員のお小遣い額は 37,428 円(前年比 445 円の減少)と、前年とほぼ同水準。1979 年の調査開始以来、過去 2 番目に低い金額(最低額は 1982 年の 34,100 円)。
- 男性社員の昼食代は 590 円(前年比 3 円の微増)と、前年とほぼ同水準。
- 男性社員の 4 人に 1 人以上(26.9%)は「お酒を飲まない」。1 回の飲み代は 5,286 円と、自宅で飲む方の 2,615 円より 2,500 円以上高い結果に。
- 女性社員のお小遣い額は、前年比 449 円増加し、33,951 円。
- 男性社員の 3 人に 1 人(32.7%)が職場で働き方改革があったと回答。働き方改革により約半数(51.2%)が「支出が増えたものがある」と回答。

### ■ お小遣い額は過去 2 番目に低い金額

男性社員の毎月のお小遣い額は前年比 445 円減少の 37,428 円と、前年とほぼ同水準、1979 年の調査開始以降 2 番目に低い金額となりました(最低額は 1982 年の 34,100 円)。子どもがいると答えた男性社員について、子どもの学齢別にみると、中高生以上がいない世帯<sup>\*</sup>では 3 万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯のお小遣い額の減少が、お小遣い額全体の水準の引き下げに影響を与えたと考えられます。

女性社員のお小遣い額は前年比 449 円増加し、33,951 円となりました。

<sup>\*</sup>中学生以上がいない世帯は、「未就学児のみいる世帯」、「未就学児と小学生がいる世帯」、「小学生のみいる世帯」の合計。

### ■ 昼食代は前年とほぼ同水準

男性社員の 1 日の平均昼食代は、前年比 3 円微増の 590 円となり、前年とほぼ同水準となりました。年代別では、20 代と 50 代が前年比増加している一方、昨年最も高かった 30 代の昼食代が 631 円から 553 円へ 78 円減少しています。女性社員の昼食代は前年比 93 円減少の 581 円となりました。年代別で見ると、30 代は前年比 100 円増加した 686 円となったものの、他の世代は昨年より減少しました。

### ■ 男性社員で「お酒を飲まない人」は 4 人に 1 人以上(26.9%)。男性社員の 1 回の飲み代は 5,286 円、女性社員の 1 回の飲み代は 4,539 円

男性社員で「お酒を飲まない人」は 26.9%と 4 人に 1 人以上で、昨年と比べて飲酒している男性社員の割合は減少しました。男性社員の 1 回の飲み代は 5,286 円と、自宅で飲む方の 2,615 円より 2,500 円以上高い結果になりました。1 回の飲み代と 1 ヶ月の平均飲み回数から算出した 1 ヶ月の飲み代は前年比 210 円増加の 11,975 円となりました。

女性社員の 1 回の飲み代は 4,539 円、自宅で飲む方は 2,346 円と、2,000 円以上の開きが見られます。1 ヶ月の飲み代は男性社員より 2,125 円低い 9,850 円となりました。

### ■ 男性社員の 3 人に 1 人(32.7%)が職場で働き方改革があったと回答

職場で働き方改革があったと回答した男性社員について、「残業が減った」(53.9%)、「有給が取りやすくなった」(30.5%)、「定時に帰宅できる日数が増えた」(30.0%)がその主な内容でした。また、働き方改革により約半数(51.2%)が「支出が増えたものがある」と回答しました。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2017 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

以上

2017年  
サラリーマンのお小遣い調査  
詳細レポート

## 2017年 サラリーマンのお小遣い調査概要

景気は回復基調が維持されているものの、  
男性会社員のお小遣い額は過去2番目に低い金額  
ランチ代は590円と前年とほぼ同水準

- 景気は回復基調が維持されているものの、家計においては賃金の伸びが穏やかなものに留まるとの見通しなどを反映し、男性会社員の平均お小遣い額は37,428円と、前年とほぼ同水準(前年比445円の減少)。1979年の調査開始以来、過去2番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)。20代は前年比5,502円減少の35,377円、30代・40代はやや減少か同水準で3万円台半ば、50代は前年比5,927円増加の44,040円で唯一4万円を超えており、他年代と50代では8千円以上の格差がある。
- 男性会社員の1日の昼食代は前年比3円微増、590円と、前年とほぼ同水準。
- 男性会社員の1回あたりの飲み代は5,286円と、自宅で飲む方の2,615円より2,500円以上高い結果に。
- 女性会社員の平均お小遣い額は、前年比449円増加し、33,951円。20代は前年比3,903円増加の42,123円となり、男性会社員50代とほぼ同水準。一方、女性会社員の昼食代は前年比93円減少の581円。1回あたりの飲み代は4,539円と、自宅で飲む方の2,346円と金額にひらきがある。
- 男性会社員の3人に1人(32.7%)が職場で働き方改革があったと回答。「残業が減った」(53.9%)、「有給が取りやすくなった」(30.5%)、「定時で帰宅できる日数が増えた」(30.0%)が主な内容。働き方改革により約半数(51.2%)が「支出が増えたものがある」と回答。
- 増税への負担を感じる人は、前年より微減しているものの、男性会社員で71.9%(2016年は74.4%)、女性会社員で80.0%(2016年は82.5%)。消費税率8%への引き上げから3年が経過するが、依然として負担を感じている層が多い。

## <2017年調査結果について>

### ■2016年度の景況

日経平均株価は2016年度初頭の4月は1万6,000円台から開始しますが、英国民投票によって「EU離脱」が選ばれた2016年6月には1万4,952円2銭と2016年度最安値まで下落しました。その後2016年11月の米大統領選における「トランプ大統領候補の勝利」による乱高下があったものの、企業業績の順調な伸びを受け、堅調に株価が上昇し、2017年3月末の終値は1万8,909円26銭（2015年度末との比較では2,150円59銭上昇）となりました。

内閣府が公表した2017年3月の景気動向指数では、景気の現状を「改善を示している」とし、2012年12月に始まった「アベノミクス景気」が52ヶ月継続（2017年4月時点で）し、景気拡大の期間が戦後3番目に長くなりました。

賃金面においては、厚生労働省が発表した2016年度の毎月勤労統計調査によると、物価変動を除いた2016年度の実質賃金指数は前年度比で0.4%増えています。同じく厚生労働省が発表した「平成28年 賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性33万5,200円（前年比0.0%と同水準）、女性24万4,600円（同1.1%増）となり、女性の賃金は過去最高となりました。

### ■2017年度の見通し

当行は、2017年度も引き続き景気拡大は継続し、労働市場の逼迫化が消費・設備投資の拡大に結びつくことで同年度の実質GDPが1.8%と成長率が加速することを見込んでいる（2016年度1.3%）<sup>(注)</sup>。また2017年度の賃金の見通しとしては、2017年春闘の中間集計結果によると（2017年5月12日時点）、基本給を底上げするベースアップ（ベア）実施額は、1,851組合の賃上げ額平均で1,332円となり（引き上げ率は0.46%）、前年同時期の実施額と率（賃上げ額1,328円、引き上げ率0.44%）とほぼ同水準となり、4年連続で賃金が引き上げられた結果となりました。このことから引き続き2017年度もサラリーマンの賃金自体は緩やかな上昇が見込めるものと考えられます。

### ■2017年サラリーマンのお小遣い調査

2016年度の「サラリーマンのお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の37,873円から445円減少して37,428円となり、1979年の調査開始以来、過去2番目に低い金額（最低額は1982年の34,100円）となりました。年代別にみると、男性会社員20代は最も減少幅が広がり昨年より5,502円減少し35,377円、30代は2,061円減少し34,785円、40代は195円減少し35,457円となり、20代から40代では昨年度よりお小遣い額が減少しました。一方、50代は昨年より5,927円上昇し、4万円台半ばとなり世代間で差が出る結果となりました。また女性会社員のお小遣い額は、昨年より449円上昇し、33,951円となり、直近4年の傾向では減少傾向が下げ止まった感があります。

ライフステージ別では、未婚とDINKS世帯（既婚・子どもなし、共働き）の男性会社員のお小遣いが最も高く、ともに4万円を超えています。一方で、子どもあり世帯の約半数を占める中高生以上がいない世帯（未就学児のみいる世帯、未就学児と小学生がいる世帯、小学生のみいる世帯）では3万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯のお小遣い額の減少が、お小遣い額の全体の水準の引き下げに影響を与えたと考えられます。

2014年4月から始まった増税による負担感も昨年とほぼ同水準で、男性・女性会社員ともに7割以上が負担を感じている（「大変負担を感じている」と「少し負担を感じている」の合計）」と回答し、依然として厳しいお財布事情が明らかになる結果となりました。

今回の調査では、「働き方改革」が家計の支出に与える影響も検証しましたが、男性会社員の32.7%が「職場で働き方改革があった」と回答し、実際に働き方改革によって支出が増えたものがある人と回答した人は男性会社員全体で51.2%と、約半数が支出増となりました。男性会社員20代ではその割合が66.4%、女性会社員20代では57.8%となり、働き方改革による支出増を牽引しているのは、男女とも20代という若年層であることが明らかになりました。

(注) 新生銀行 金融調査部 「日本経済見通し(2017年5月版、第3号)」(2017年5月24日)

## ＜調査設計＞

- **調査時期**            2017年4月7日～4月9日の3日間
- **調査方法**            インターネットによる調査(専門の調査会社に依頼し、全国からサンプルを収集)
- **調査エリア**            全国
- **調査対象者**            会社員(正社員・契約社員・派遣社員)、パート・アルバイト
- **サンプル数**            合計2,714名  
                                 会社員                            男性:1,252名、女性:789名  
                                 パート・アルバイト        男性:415名、女性:258名
- **サンプル内訳**

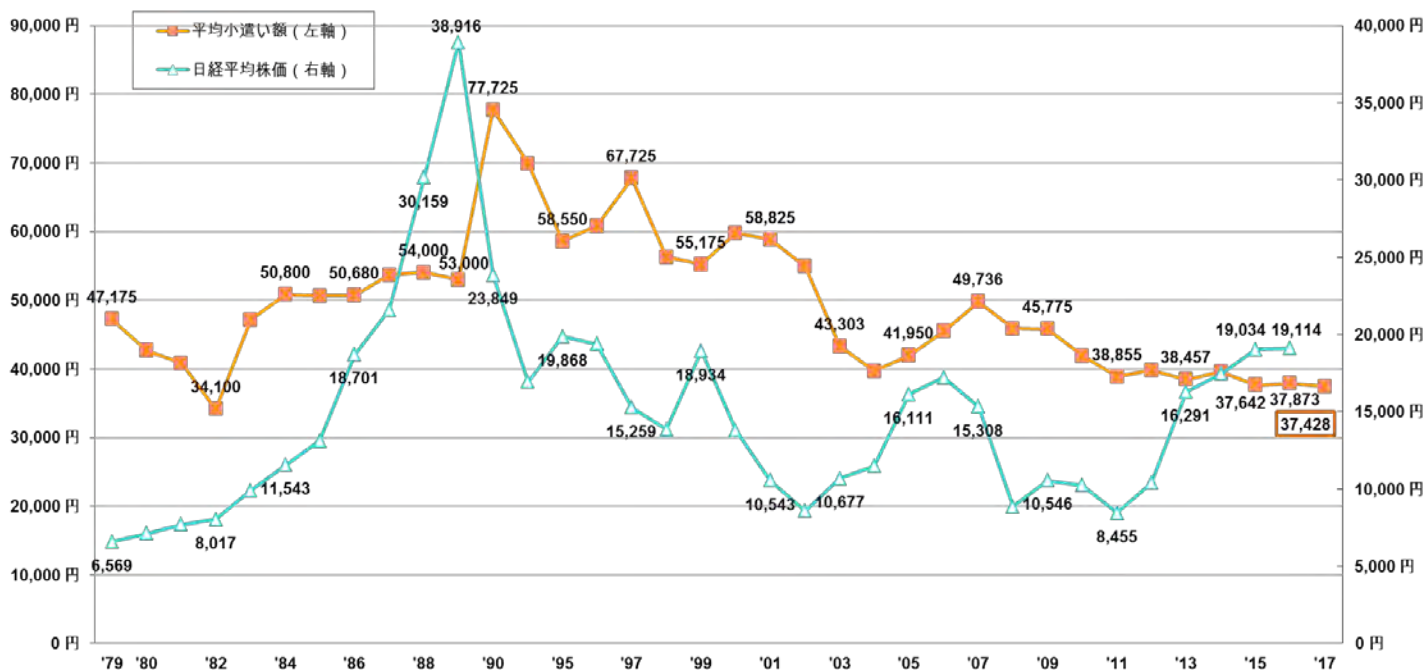
	男性 会社員		女性 会社員		男性 パート・アルバイト		女性 パート・アルバイト	
	N	%	N	%	N	%	N	%
20代	313	25%	197	25%	140	34%	65	25%
30代	313	25%	198	25%	140	34%	64	25%
40代	313	25%	197	25%	73	18%	64	25%
50代	313	25%	197	25%	62	15%	65	25%
総計	<b>1,252</b>	<b>100%</b>	<b>789</b>	<b>100%</b>	<b>415</b>	<b>100%</b>	<b>258</b>	<b>100%</b>

※会社員、女性パート・アルバイトは、年代均等にて割付回収しています。  
 ※男性パート・アルバイトは年代均等になるよう、集計時に補正をしています。  
 (本レポートは、補正後のスコアを掲載しています)

## ＜目次＞

【1】サラリーマンのお小遣い.....	6
【2】サラリーマンの昼食事情.....	12
【3】サラリーマンの飲み事情.....	16
【4】働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化.....	20
【5】消費税の負担感、経済的なゆとり.....	26
【6】お小遣いの使いみち、やりくり術.....	30
【7】サラリーマンの給与管理状況の使い方・やりくりの変化.....	35
【8】パート・アルバイトの基本データ.....	37

## 日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移 (1979年～2017年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

## 【1】サラリーマンのお小遣い

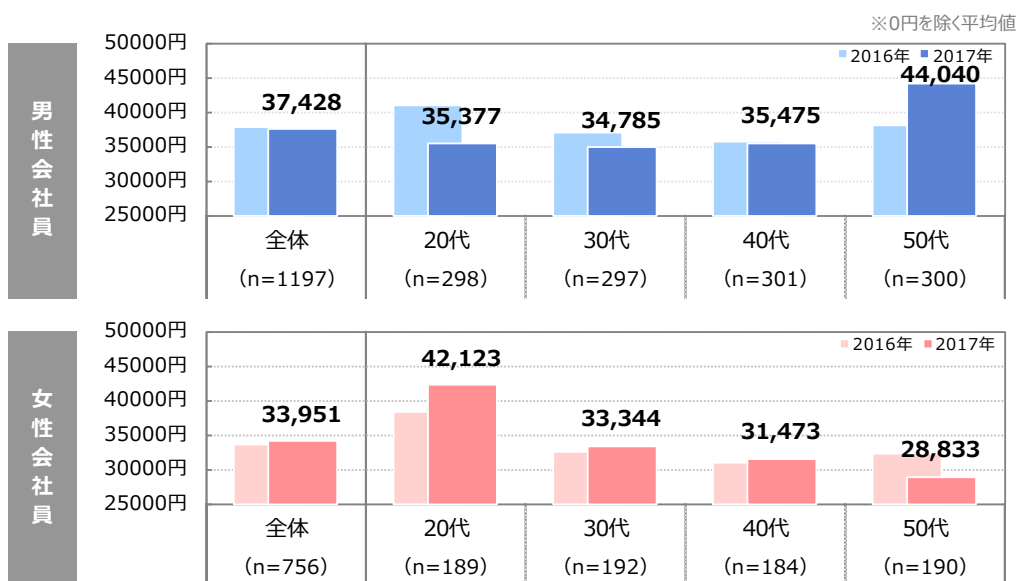
- ▶ 男性社員の月額平均お小遣い額は37,428円と前年比445円微減で前年とほぼ同水準であるが、過去2番目に低いお小遣い額に（最低額は1982年の34,100円）
- ▶ 20代は昨年より5,502円減少、30代は2,061円減少、40代は195円微減するが、50代は5,927円増加し、20代から40代と50代では9,000円近く差がでる結果に
- ▶ ライフステージ別では、未婚者やDINKS世帯（既婚・子どもなし、共働き）では4万円を超えるが、子どもがいる世帯は3万円前半の水準
- ▶ 女性社員は昨年より449円微増し、33,951円。男性社員より3,477円低い

### ■ 月の平均お小遣い額

男性社員の月の平均お小遣い額は、昨年の37,873円から445円微減の37,428円となりました。昨年とほぼ同じ水準となりますが、1979年の調査開始以降では、過去2番目に低い金額です（最低額は1982年の34,100円）。年代別に見ると、20代は昨年より5,502円減少しているものの、50代は昨年より5,927円上昇し、4万円を超えています。

女性社員については、お小遣い額は昨年より449円上昇し、33,951円となりました。年代別に見ると、20代は昨年より3,903円増加していますが、50代は、昨年より3,395円減少し、3万円を下回っています。

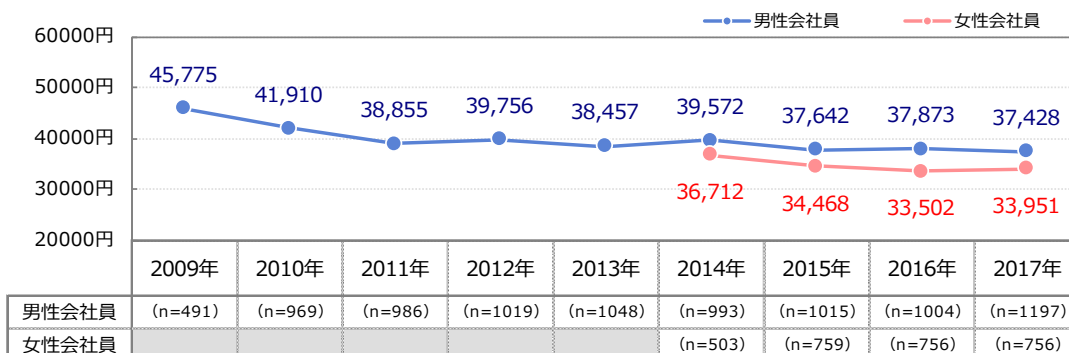
設問：あなたの「おこづかい」はいくらですか？（昼食代含む）



男性社員における近年のお小遣い額の推移は、減少傾向が2011年で下げ止まり、以降は3万円台後半を維持しています。2017年は昨年より445円減少しましたが、マクロ的な視点で見ると大きな変化はないと捉えられます。

女性社員は、昨年より449円上昇しており、直近4年間でみますと減少傾向が下げ止まったと捉えられます。

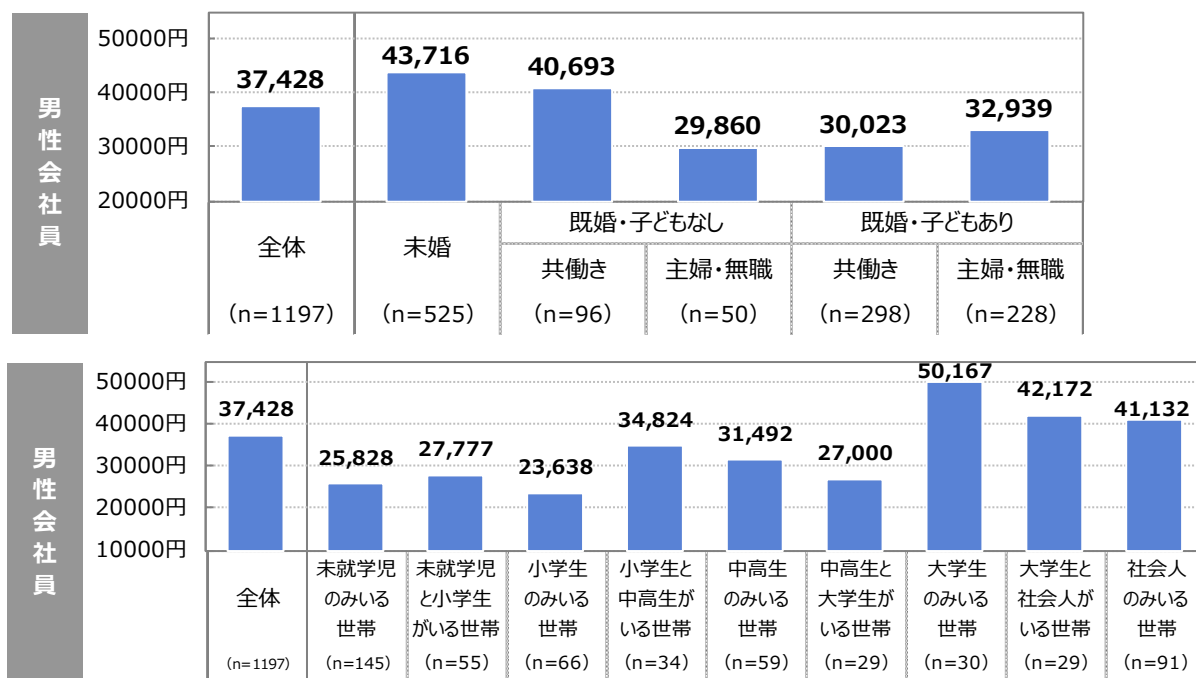
### ■ 平均お小遣い額の時系列推移（2009年～2017年）



男性社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者・DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)では4万円を超えています。一方、子どもなし・専業主婦世帯や子どもあり世帯は約3万円と、1万円程度の開きがみられます。

また、子どもの学齢別にみると、中高生以下がいない世帯(大学生のみいる世帯、大学生と社会人がいる世帯、社会人のみいる世帯)がいずれも4万円を超えている一方、中高生以上がいない世帯(未就学児のみいる世帯、未就学児と小学生がいる世帯、小学生のみいる世帯)ではいずれも3万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が読み取れる結果となりました。

※0円を除く平均値



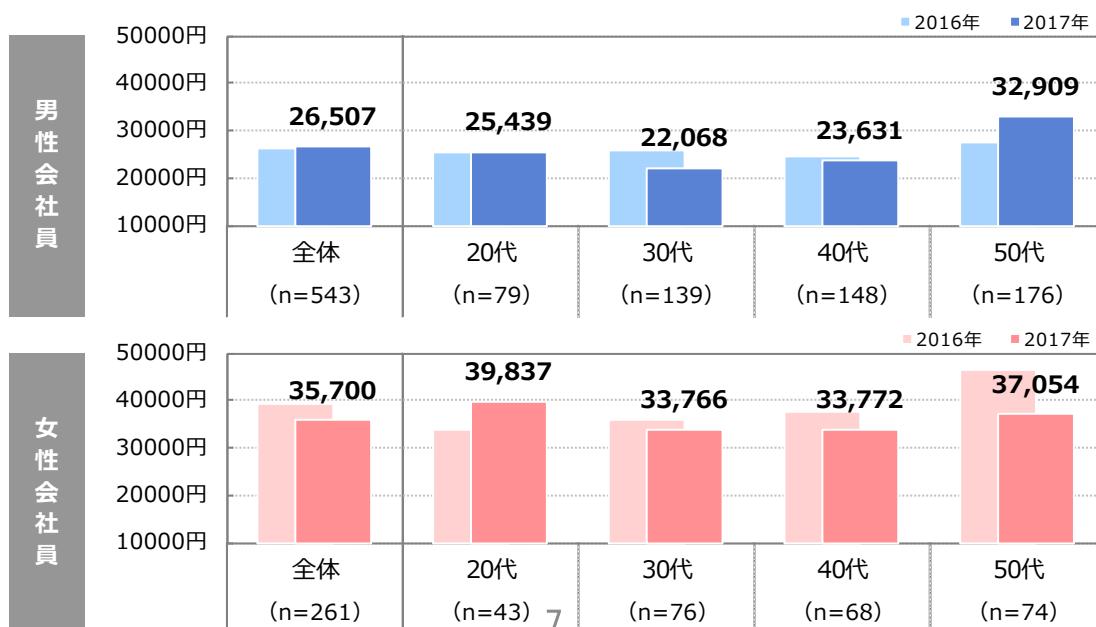
※n=30未満は参考値として掲載

## ■ 配偶者のお小遣い額

男性社員の配偶者のお小遣い額は、昨年より506円増加し、26,507円となっています。年代別では、30代で3,857円の減少、50代で5,341円の上昇の傾向がみられます。一方、女性社員の配偶者のお小遣い額は、3,523円減少し、35,700円となっており、前頁の男性社員のお小遣い額と比べて1,728円低い結果となっています。また、年代別にみると、20代では昨年より上昇しているものの、30代以上は昨年より減少している傾向がみられます。

設問：配偶者の一か月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)

※既婚者・おこづかいある方ベース



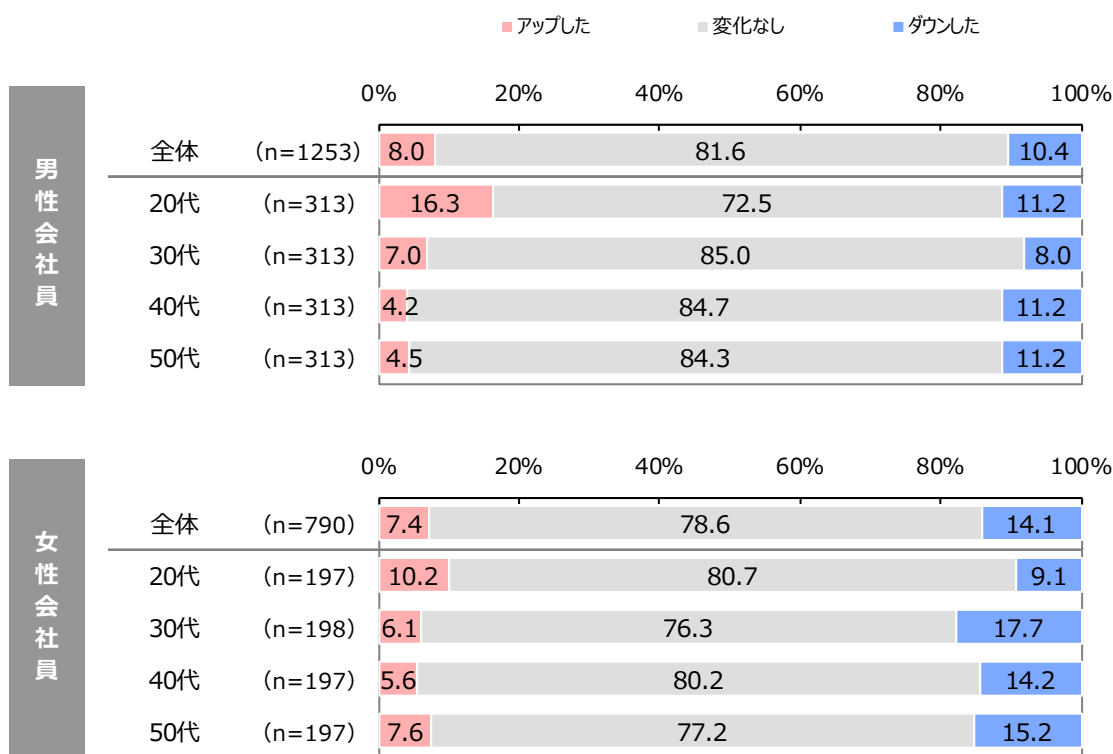


## ■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、多くの方が「変化なし」という結果でした。変化があった方では、「アップした」が8.0%、「ダウンした」が10.4%と、減額された方の割合がやや高くなっています。年代別に見ると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では16.3%に達しています。一方、「ダウンした」の割合は、30代で少ないものの、30代以外では同水準となっています。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。また、「アップした」の割合が若年の方ほど高い傾向も、男性会社員と共通していますが、「ダウンした」の割合は30代が一番高くなっています。なお、「ダウンした」の割合は、30代以上で男性よりもやや高い傾向となっています。

設問：この一年(2016年4月～2017年3月)の間に、あなたの“おこづかい”はどのように変化しましたか？

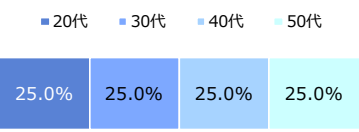
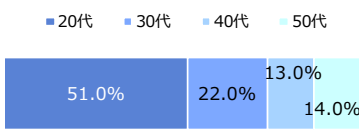
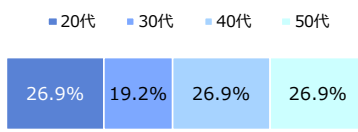
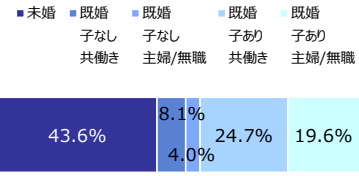
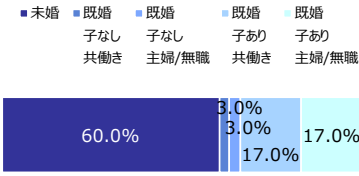
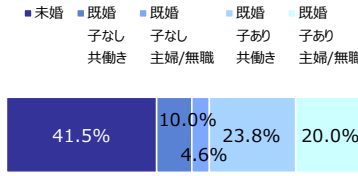
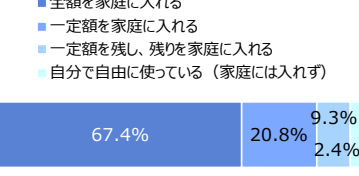
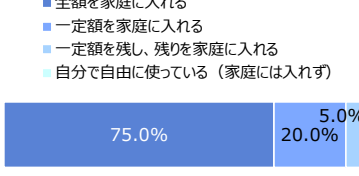
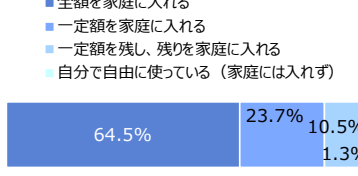


## ■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性社員のこの1年でお小遣いがアップした方(8.0%)とダウンした方(10.4%)のプロフィールを、男性社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が51.0%を占め、若年層寄りの傾向がみられます。家族構成では未婚者が60%を占め、年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と109万円の開きがあります。

一方、お小遣いがダウンした方は、個人年収・世帯年収ともに全体より低く、特に世帯年収は全体と108万円の開きがあります。

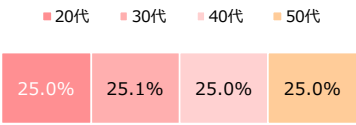
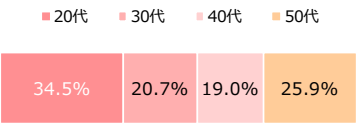
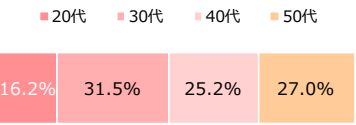
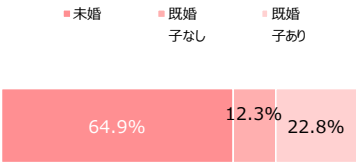
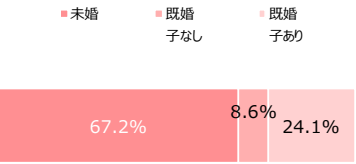
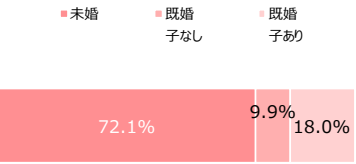
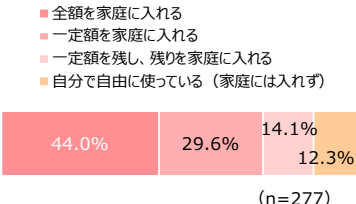
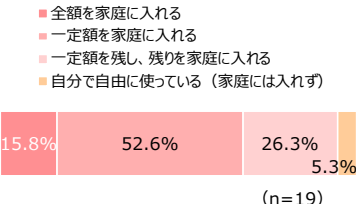
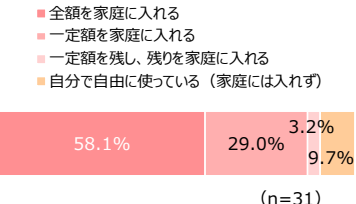
	男性社員 全体 (n=1253)	お小遣いがアップした方 (n=100)	お小遣いがダウンした方 (n=130)
年齢			
年収	個人年収 <b>505</b> 万円 世帯年収 <b>637</b> 万円	個人年収 <b>532</b> 万円 世帯年収 <b>746</b> 万円	個人年収 <b>433</b> 万円 世帯年収 <b>529</b> 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース			

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性会社員では、この1年でお小遣いがアップした方は7.4%、ダウンした方は14.1%という結果になりました(P8参照)。

女性会社員全体と比較して、プロフィールの特徴を見ると、まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が34.5%を占め、男性会社員同様、若年層寄りの傾向がみられます。年収も個人年収・世帯年収ともに高く、特に世帯年収で全体と179万円の開きがあります。また、給与管理状況は、全額を家庭に入れる割合が少なく、一部分を家庭に入れている割合が多くなっています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は20代がやや少なく、世帯年収は全体より117万円低くなっています。また、給与管理状況も、全額を家庭に入れている方が全体より多くなっています。

	女性会社員 全体 (n=790)	お小遣いがアップした方 (n=58)	お小遣いがダウンした方 (n=111)
年齢			
年収	個人年収 <b>309</b> 万円 世帯年収 <b>574</b> 万円	個人年収 <b>395</b> 万円 世帯年収 <b>753</b> 万円	個人年収 <b>278</b> 万円 世帯年収 <b>457</b> 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース			

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

## ■ お小遣い額がダウンした理由

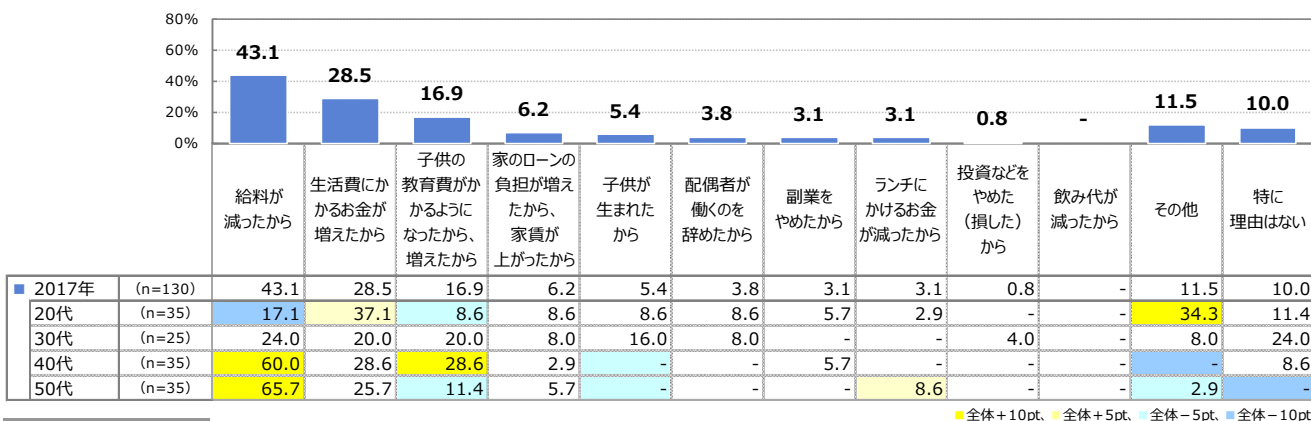
この1年でお小遣いがダウンした方(男性会社員:10.4%、女性会社員14.1%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがダウンした理由は、「給料が減ったから」が43.1%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」28.5%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」16.9%が続く結果となりました。年代別では、40代・50代で「給料が減ったから」が高くなっている点が特徴的です。

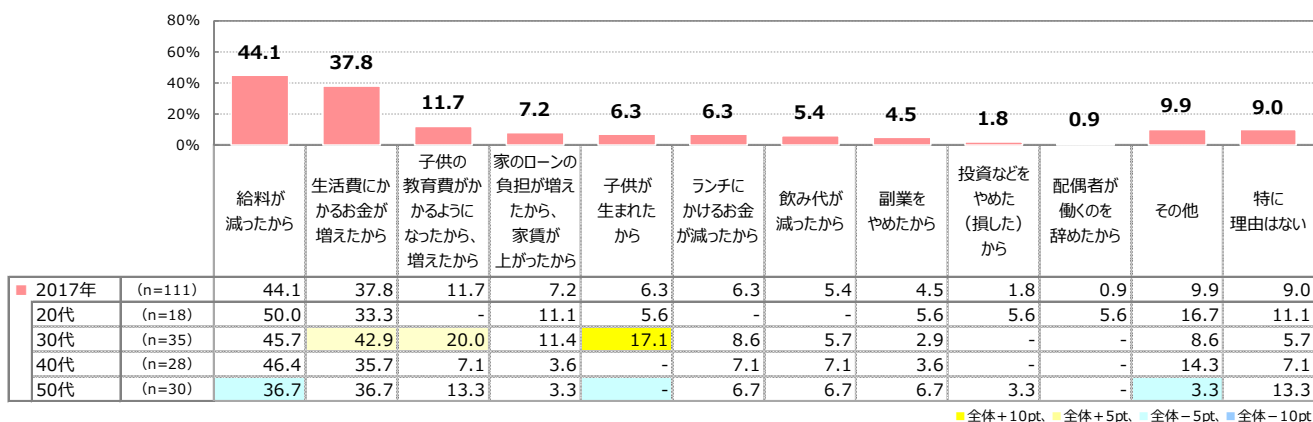
また、女性会社員の理由は、男性会社員同様、「給料が減ったから」が44.1%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」37.8%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」11.7%が続いています。年代別では、30代で「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」や「子供が生まれたから」が高くなっており、子供の影響によるお小遣いの減少がみられます。

設問：おこづかいがダウンした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

### 男性会社員



### 女性会社員



※n=30未満は参考値として掲載

## 【2】サラリーマンの昼食事情

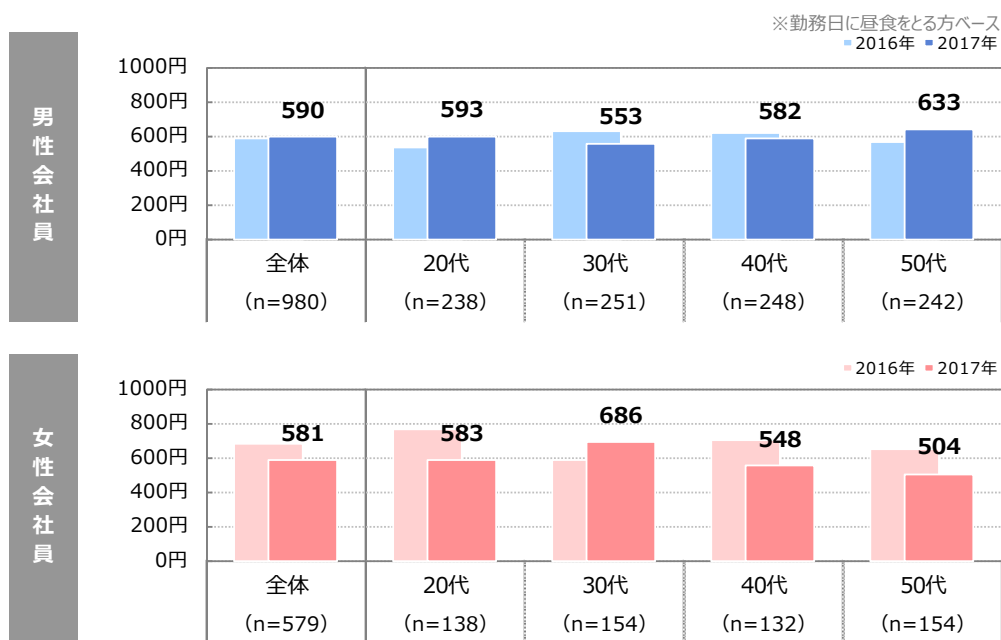
- 男性社員の昼食代は590円と昨年の587円とほぼ同水準、女性社員は昨年より93円と大きく減少し581円となり、男性社員よりも低い昼食代となる
- 男性・女性社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で3割半ば、女性で約半数を占める
- 昼食にかかる平均時間では、男性社員が22分に対し、女性社員は30分と男性よりやや長い傾向

### ■ 一日の平均昼食代

男性社員の一日の昼食代は、昨年の587円から3円微増し、590円となりました。年代別にみると、20代と50代が上昇している一方で、昨年最も高かった30代の昼食代が最も低くなっています。

女性社員の一日の昼食代は、昨年の674円から93円減少し、581円となりました。年代別にみると、30代以外で昨年より減少している傾向がみられます。また、男性社員と比較しても、30代以外は、男性社員よりも低くなっています。

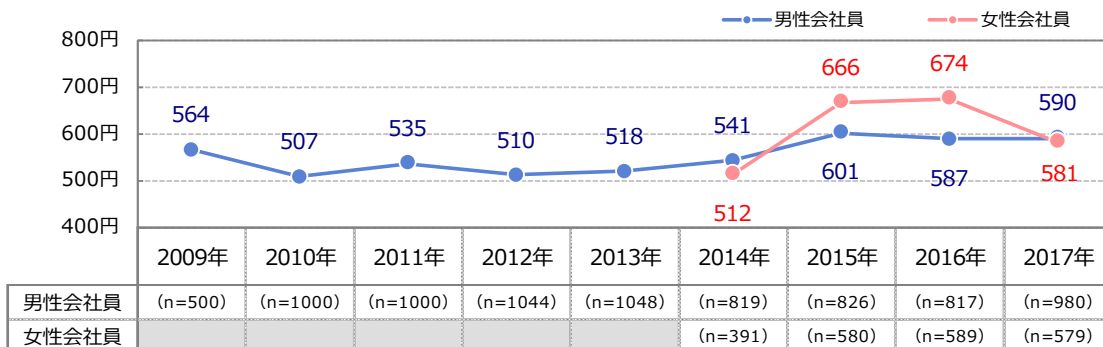
設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)



男性社員における直近の昼食代の傾向は、昨年より3円微増していますが、マクロ的な視点では直近3年間で大きな変化はないと捉えられます(最高額は2015年の601円)。

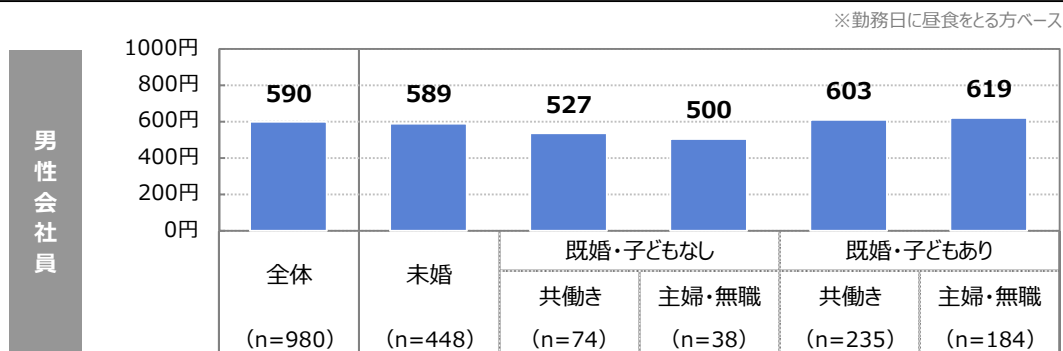
一方、女性社員の平均昼食代は、昨年より93円減少しており、昨年と比較して大きな変化となっています。

### ■ 平均昼食代の時系列推移(2009年～2017年)



男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、既婚・子どもあり・専業主婦世帯が最も高い金額となっています。

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)



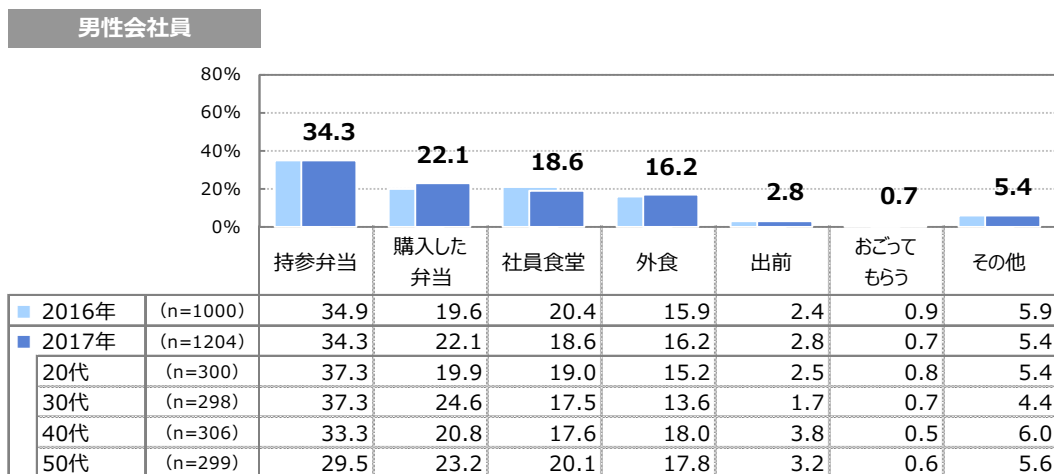
## ■ 昼食の内訳

男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」34.3%、「購入した弁当」22.1%、「社員食堂」18.6%の順で、昨年より「購入した弁当」の割合が増加し、トップ2に順位が上がっています。

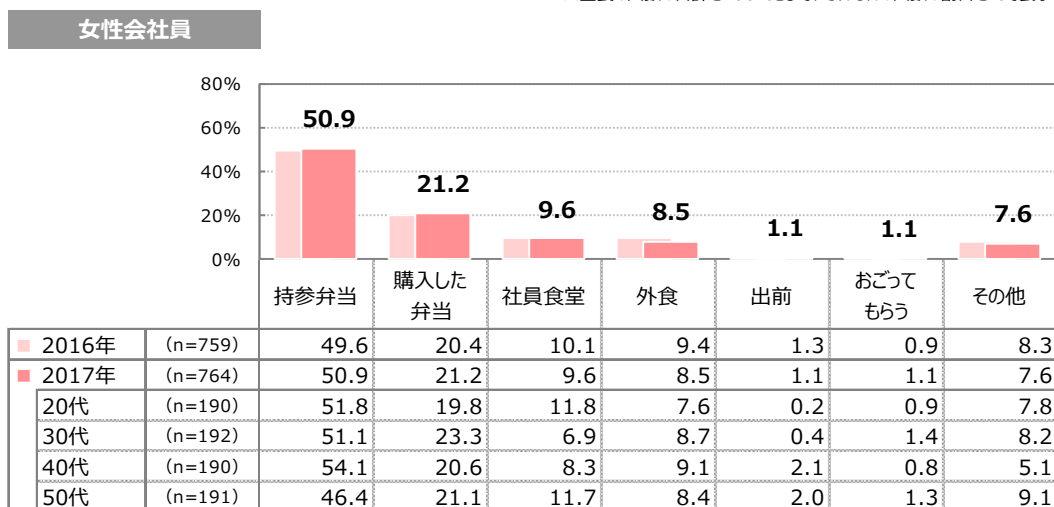
女性会社員では、男性会社員同様「持参弁当」50.9%、「購入した弁当」21.2%、「社員食堂」9.6%の順となっています。また、「社員食堂」、「外食」が男性よりも低く、「持参弁当」が高いことから、お弁当で昼食を済ませる傾向が強いことがわかります。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。

※勤務日に昼食をとる方ベース



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示



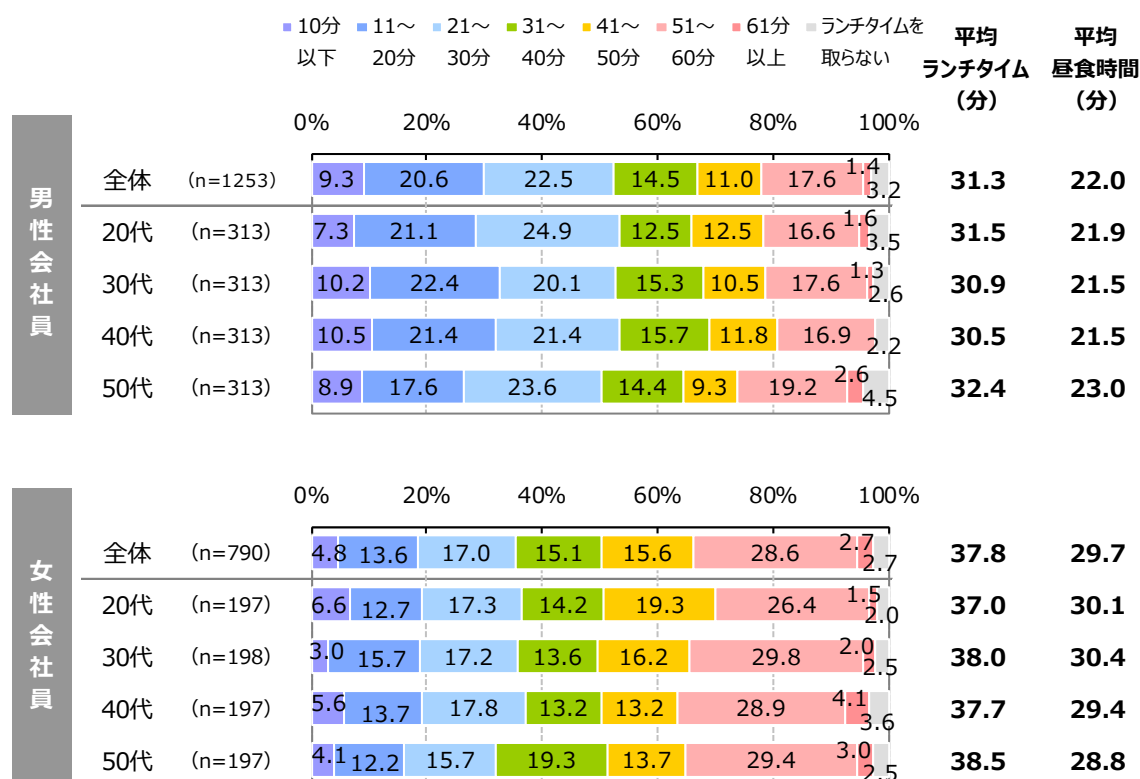
※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

## ■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均31.3分。そのうち、昼食時間は平均22.0分となっています。回答時間が分散していることから、個々人でランチタイム時間にばらつきがあることがわかります。なお、年代による大きな差はみられませんでした。

女性社員においては、「51～60分」が3割程度と多く、ランチタイム時間は平均37.8分、昼食時間は平均29.7分と、男性よりやや長い傾向がみられます。なお、男性同様、年代による大きな差はみられませんでした。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。  
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



## ■ ランチタイムの過ごし方

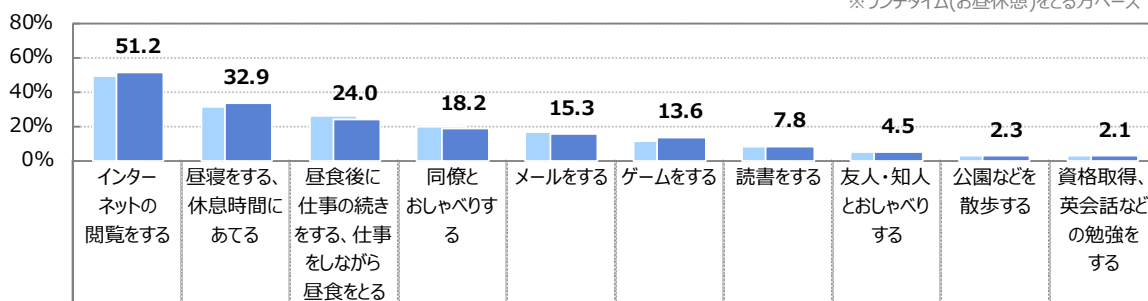
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」51.2%、「昼寝や休息」32.9%、「仕事の続き/仕事をしながら」24.0%となっています。

女性社員においても、男性同様、「インターネットの閲覧」52.3%がトップになっています。しかし、「同僚とおしゃべり」37.8%、「メール」27.1%が続いており、男性社員と比べて誰かと会話しながら過ごす傾向にあることがわかります。また、性年代別では、20代で「インターネットの閲覧」、「メール」、「ゲーム」が高くなっており、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごしている割合が多いことが読み取れます。

設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

### 男性社員

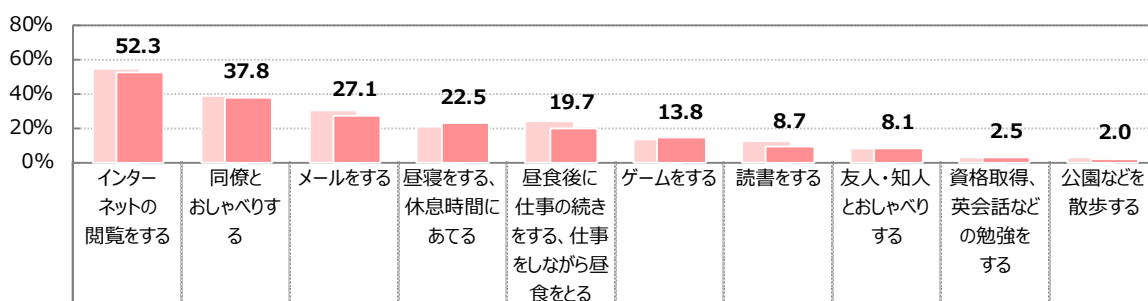
※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース



■ 2016年	(n=1007)	49.1	31.6	26.0	19.6	15.9	11.2	7.7	5.1	2.9	2.9
■ 2017年	(n=1213)	51.2	32.9	24.0	18.2	15.3	13.6	7.8	4.5	2.3	2.1
■ 20代	(n=302)	50.7	30.5	25.8	22.8	19.9	16.6	6.6	7.3	1.7	3.6
■ 30代	(n=305)	53.1	32.8	23.9	16.7	14.8	16.1	7.5	4.6	2.0	2.3
■ 40代	(n=306)	49.3	34.0	21.2	15.4	13.1	12.1	7.8	2.9	2.9	2.0
■ 50代	(n=299)	51.5	34.4	25.1	18.1	13.4	9.7	9.4	3.3	2.7	0.7

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt ※上位10項目を掲載

### 女性社員



■ 2016年	(n=769)	54.2	38.6	29.6	20.8	23.5	13.3	12.6	7.4	3.1	2.3
■ 2017年	(n=769)	52.3	37.8	27.1	22.5	19.7	13.8	8.7	8.1	2.5	2.0
■ 20代	(n=193)	58.0	38.3	32.1	18.7	22.3	22.8	6.7	9.3	4.7	1.0
■ 30代	(n=193)	55.4	37.8	30.6	25.9	16.1	10.4	8.8	7.8	3.1	1.0
■ 40代	(n=190)	47.9	40.0	20.0	20.5	18.9	12.1	11.6	7.4	2.1	3.7
■ 50代	(n=192)	47.9	34.9	25.5	25.0	21.4	9.9	7.8	7.8	-	2.1

■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt ※上位10項目を掲載



### 【3】サラリーマンの飲み事情

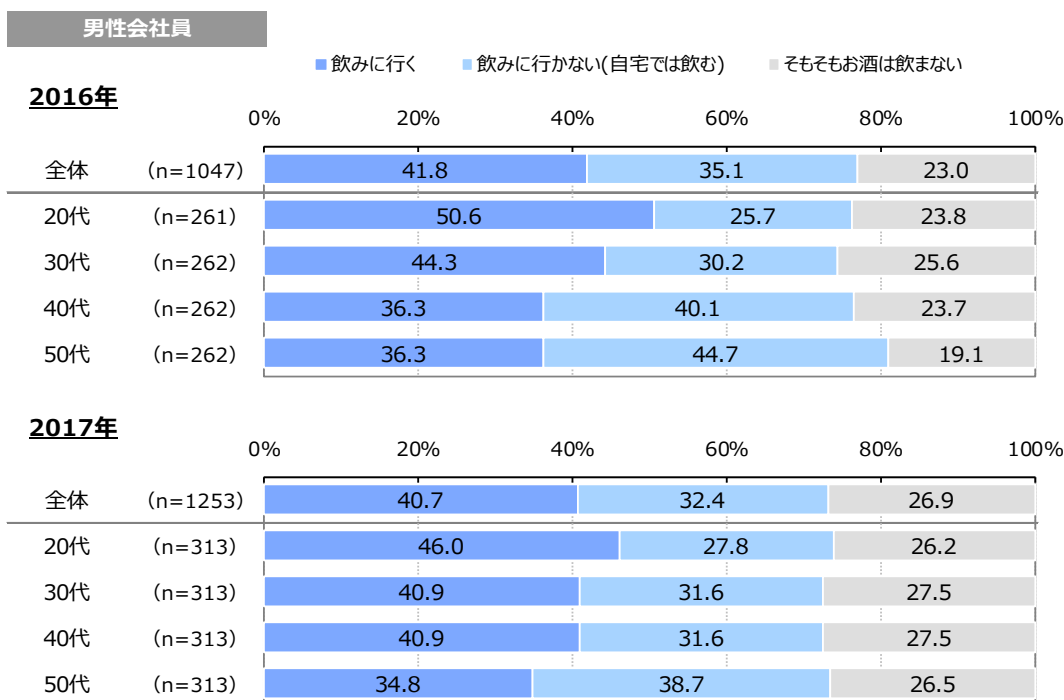
- ▶ 昨年と比べて飲酒している男性社員の割合が減り、仕事後の外、自宅含めた飲酒は73.1%となり、「お酒を飲まない人」は26.9%と4人に1人は飲酒しない状況
- ▶ 男性社員の1回の飲み代は5,286円、女性社員の1回の飲み代は4,539円
- ▶ 1カ月の飲み代は、男性社員は前年より210円増え11,975円、女性社員は1,828円増え9,850円に(※飲み行く方ベース比較、19ページ参照)

#### ■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

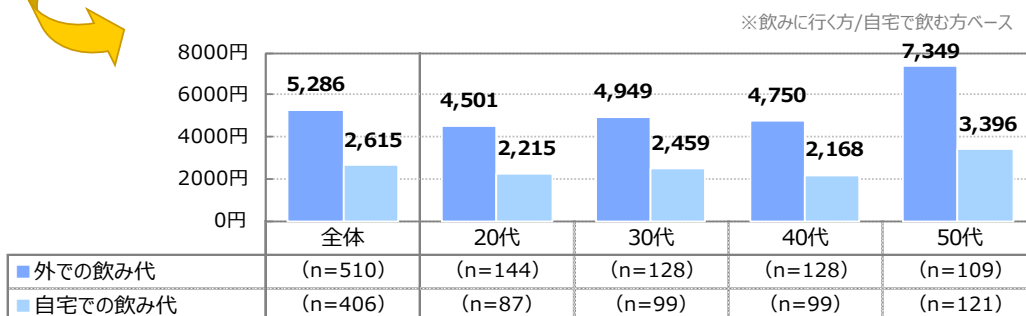
男性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が40.7%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が32.4%を占めており、飲酒している方は73.1%にのぼります。また、「そもそもお酒は飲まない」が26.9%と4人に1人以上が、仕事後にお酒を飲まないと回答しています。昨年と比べて、飲酒している方の割合が減少しており、その傾向は、特に50代で強くみられます。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が2,500円以上高くなっています。外での1回あたりの飲み代は平均5,286円、自宅での飲み代平均2,815円となり、特に50代は外での飲み代は全体平均より2,000円以上高い7,349円となっています。

設問：仕事が終わった後、一月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？  
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

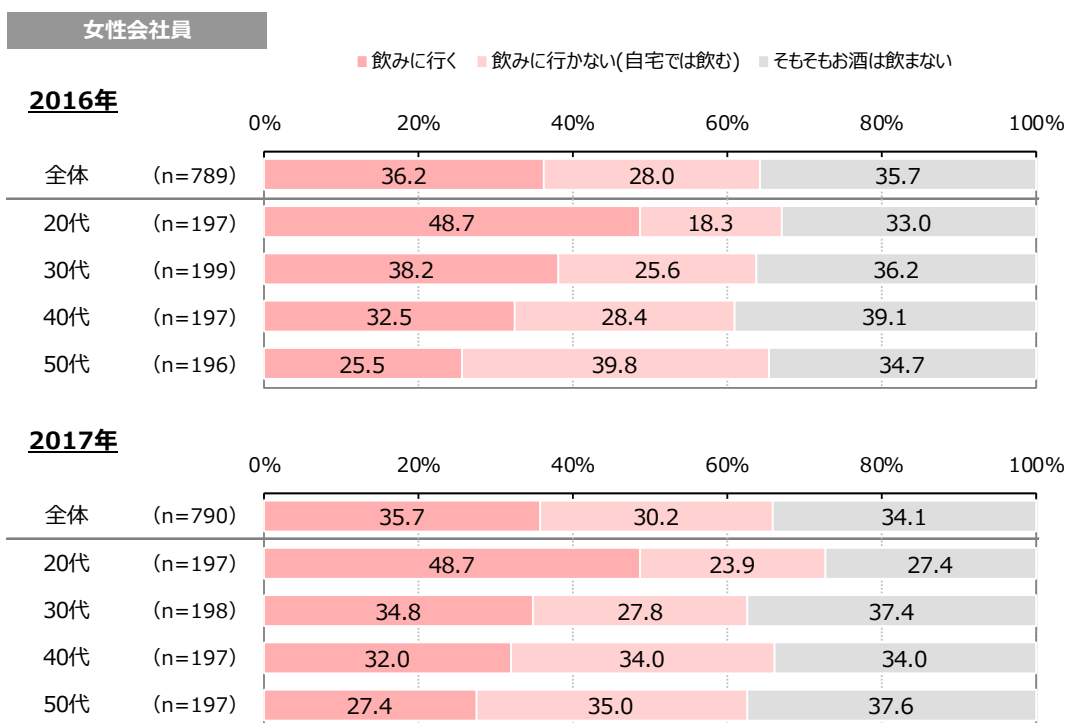


#### 1回の平均飲み代は・・・？

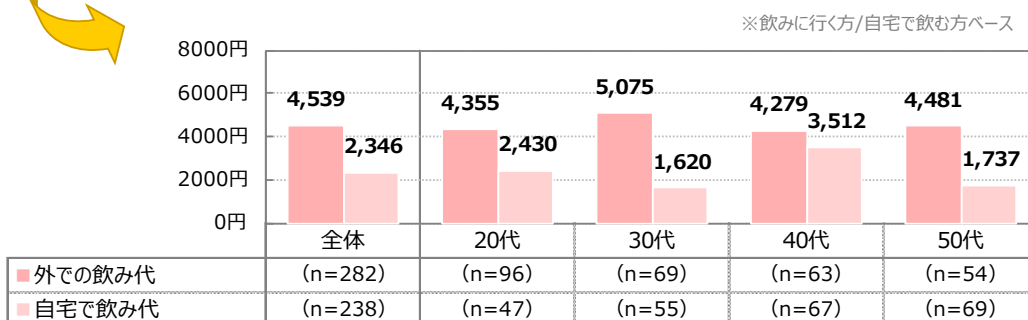


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が35.7%を占め、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」層も30.2%を占めており、飲酒している方は65.9%となっています。年代別にみると、20・40代で自宅で飲む割合が増えています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均4,539円に対し、自宅での飲み代が平均2,346円と、2,000円以上の開きが見られます。また、性年代別では、外での飲み代は、30代が最も高く、40代が最も低いのに対し、家での飲み代は、40代が最も高く、30代が最も低くなっている点が特徴的です。



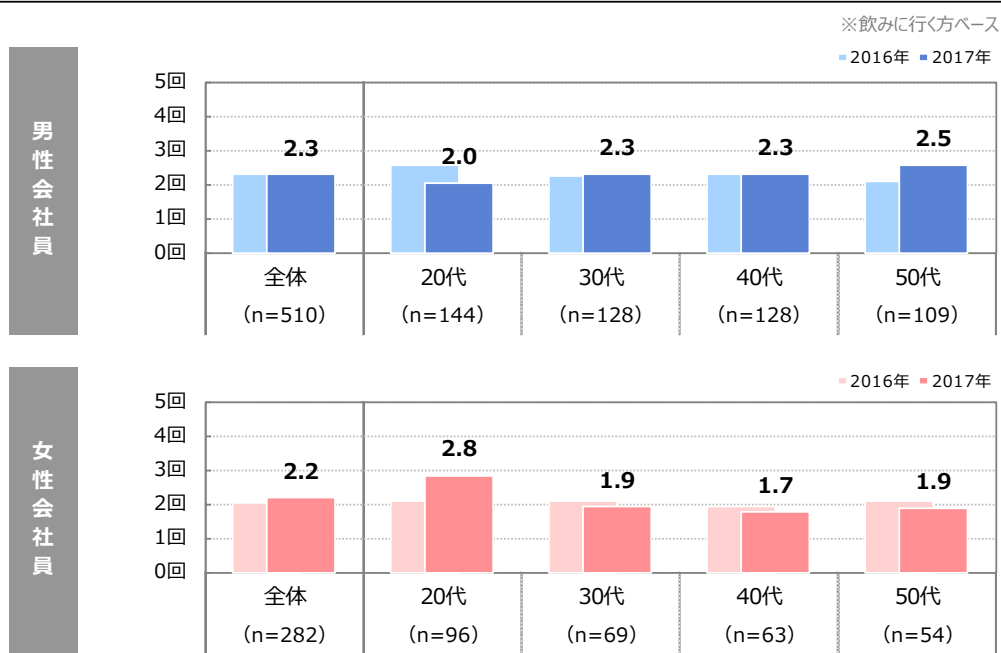
**1回の平均飲み代は...?**



## ■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

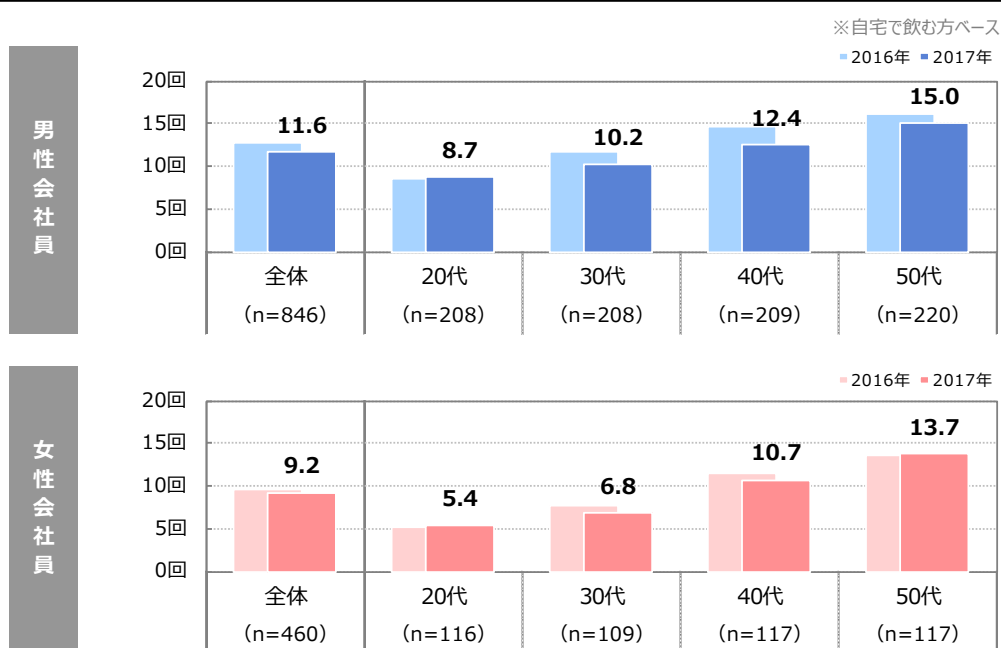
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は、昨年と同様2.3回、女性社員は昨年より0.2回増え、2.2回となりました。年代別にみると、男性社員は、昨年最も多かった20代が最も少なくなっており、昨年最も少なかった50代が最も多くなっています。一方、女性社員は、20代で昨年から0.7回増加と、大幅に回数が増えている点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一ヶ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が11.6回、女性社員が9.2回と、男女ともに昨年を下回っています。年代別にみると、年配の方ほど自宅で飲む回数が多い傾向がみられます。

設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？

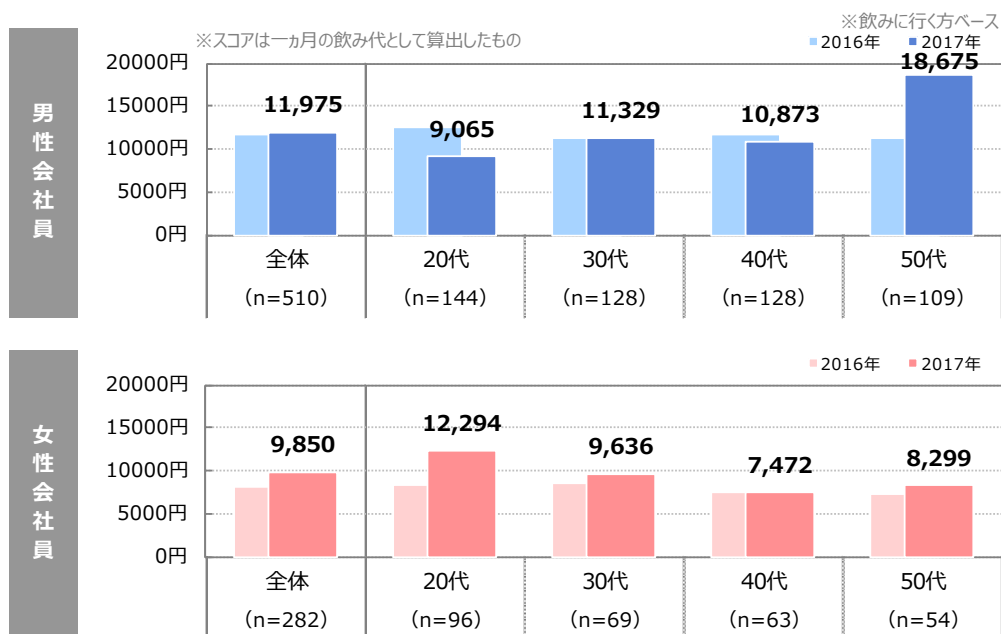


## ■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性会社員の1カ月の飲み代は、昨年より210円増え、11,975円となりました。年代別にみると、20代は昨年より減少している一方、50代は昨年の11,360円から大幅に増加しています。

女性会社員は、男性会社員より2,125円低い9,850円という結果になりました。年代別にみると、20代で昨年の8,022円から大幅に増加している点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？  
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



## 【4】働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化

- 男性会社員では、3人に1人(32.7%)が職場で働き方改革があったと回答。年収が高い人ほどその割合が増え、年収700万円以上では4割を超える
- 働き方改革の内容としては、「残業が減った」が53.9%、「有給が取りやすくなった」が30.5%、「定時で帰宅できる日数が増えた」が30.0%と続く。年収900万円以上では「多様な形態で働けるようになった」が2割を超え、働き方改革がより踏み込んだ内容にまで及んでいる
- 働き方改革により約半数(51.2%)が「支出が増えた」と回答し、20代男性会社員では66.4%と支出の増加が顕著。内訳は「食費(飲み代除く)」30.5%、「趣味の費用」22.9%、「飲み代」が21.4%が続く

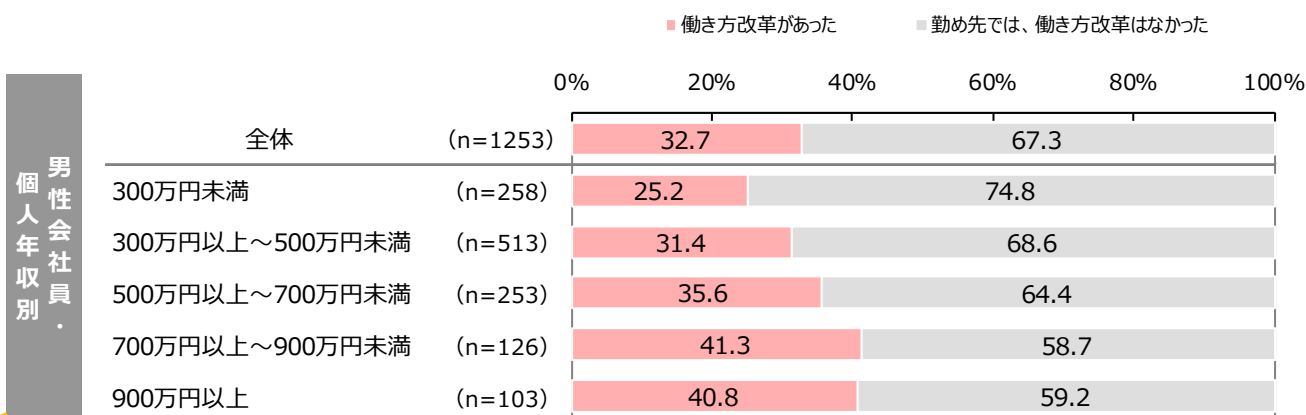
### ■ 働き方改革の有無

今年2月からのプレミアムフライデー導入、長時間労働の是正に向けた取り組みなど、企業の働き方改革が注目されています。では、企業の働き方改革により、会社員のお小遣いにどのような影響があったのでしょうか。

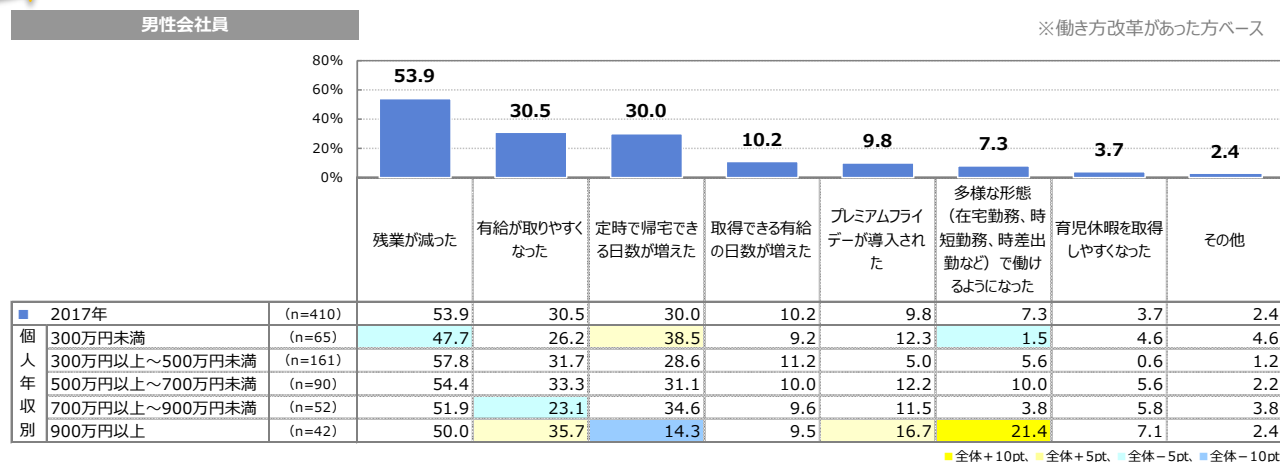
男性会社員における、働き方改革の有無は、32.7%と3人に1人が働き方改革があったと回答しています。個人年収別で見ると、年収が高いほど働き方改革があった方が多い傾向がみられます。

働き方改革があった人における働き方改革の内容は、「残業が減った」が53.9%で最も高く、「有給が取りやすくなった」30.5%、「定時で帰宅できる日数が増えた」30.0%が続く結果となっています。

設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



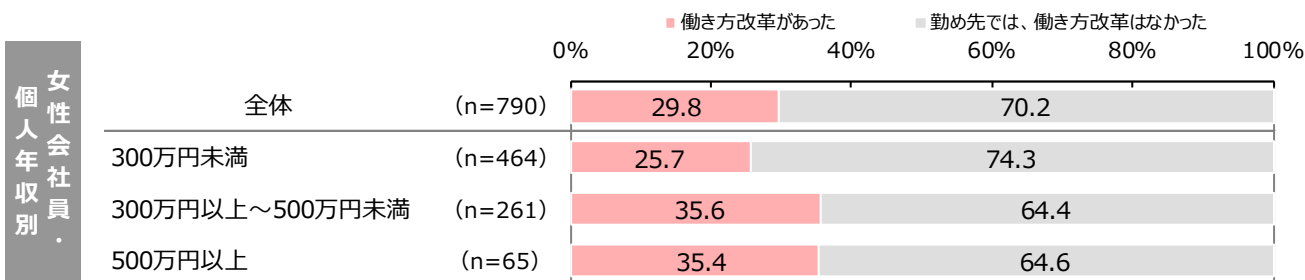
### 働き方改革の内容



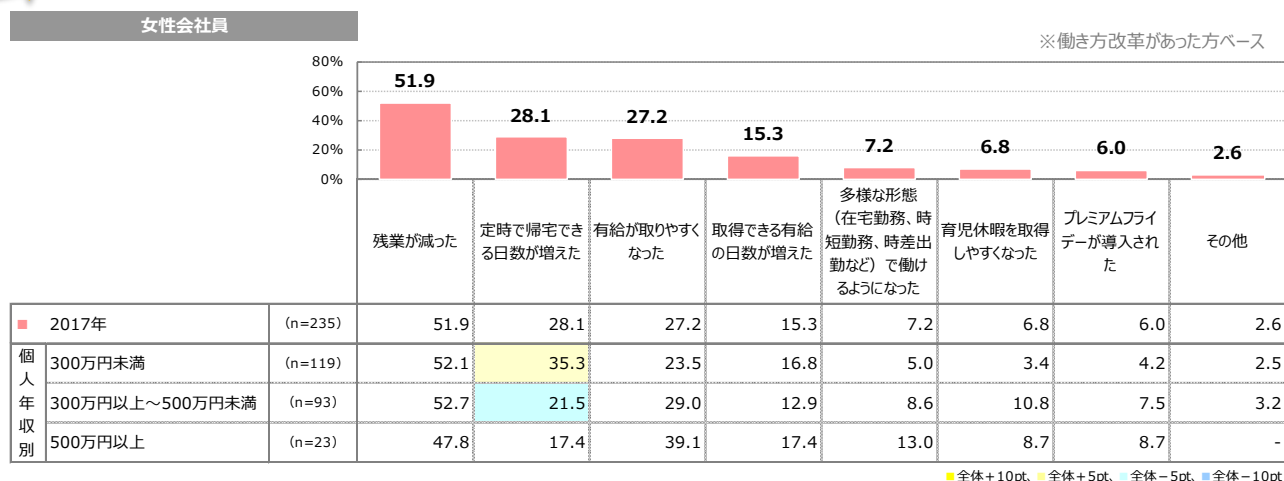
女性社員における、働き方改革の有無は29.8%となっており、男性社員同様、約3人に1人が働き方改革があったと回答しています。

働き方改革の内容は、「残業が減った」が51.9%で最も高く、「定時で帰宅できる日数が増えた」28.1%、「有給が取りやすくなった」27.2%が続き、こちらも男性社員と同様の結果となりました。

設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



### 働き方改革の内容



※n=30未満は参考値として掲載

## ■ 働き方改革による支出の変化

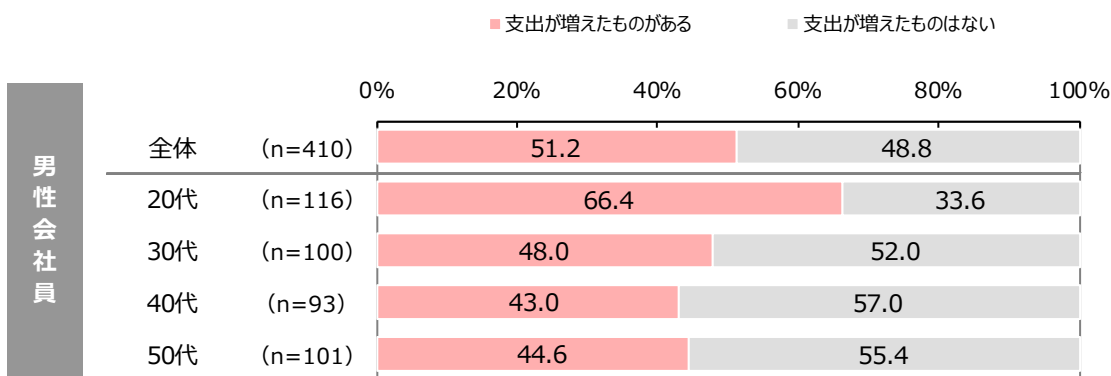
それでは、働き方改革があった方の、働き方の変化による支出への影響はどうなっているのでしょうか。

男性社員では、約半数の方が、働き方改革によって「支出が増えたものがある」と回答しています。年代別にみると、若年層ほど支出が増えた方が多い傾向がみられます。

支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が30.5%で最も高く、「趣味の費用」22.9%、「飲み代」21.4%と続いており、飲食費が増えていることがわかります。年代別にみると、20代で「旅行代」、「自己啓発」、「身だしなみのための費用」、40代で「趣味の費用」、「スポーツ費用」が高い一方、30代で「子どもの教育関連の費用」が高い傾向が見られ、年代によってお金を使う相手・シーンが違ってくる傾向がみられます。

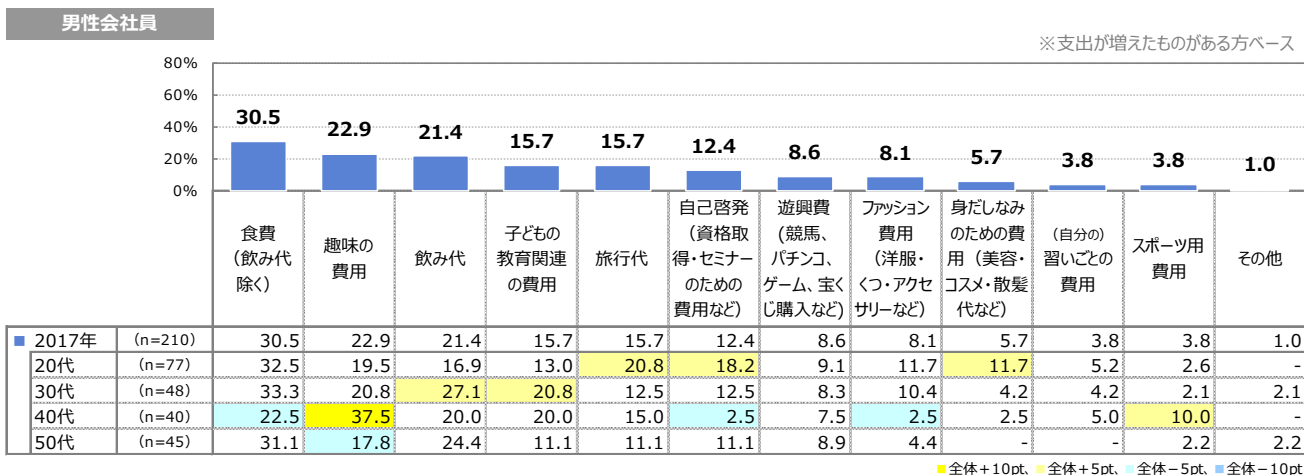
設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものはありますか。

※働き方改革があった方ベース



### 支出が増えたもの

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものはありますか。ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

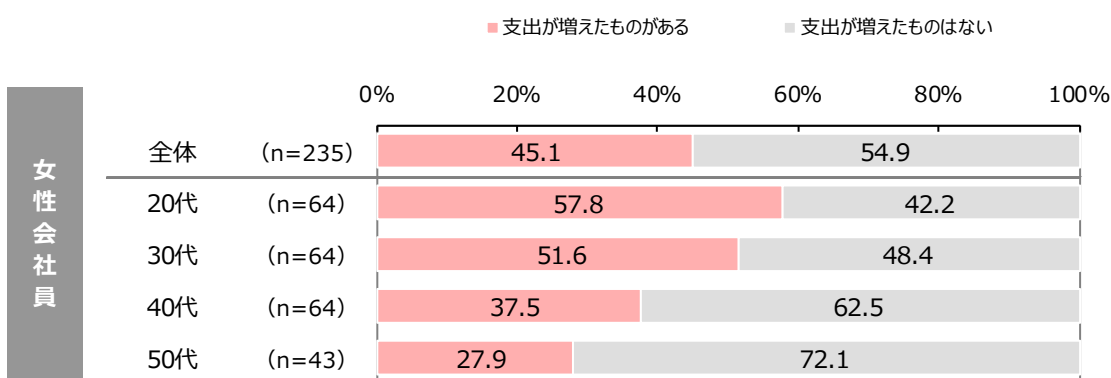


女性社員においても、男性社員同様、約半数の方が「支出が増えたものがある」と回答しています。年代別の傾向も男性社員同様、若年層ほど支出が増えた方が多い傾向がみられます。

支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が39.6%で最も高く、「ファッション費用」22.6%、「身だしなみのための費用」18.9%と続いており、男性社員と比較して、身の回りのことについての支出が増えている点が特徴的です。

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものがありますか。

※働き方改革があった方ベース

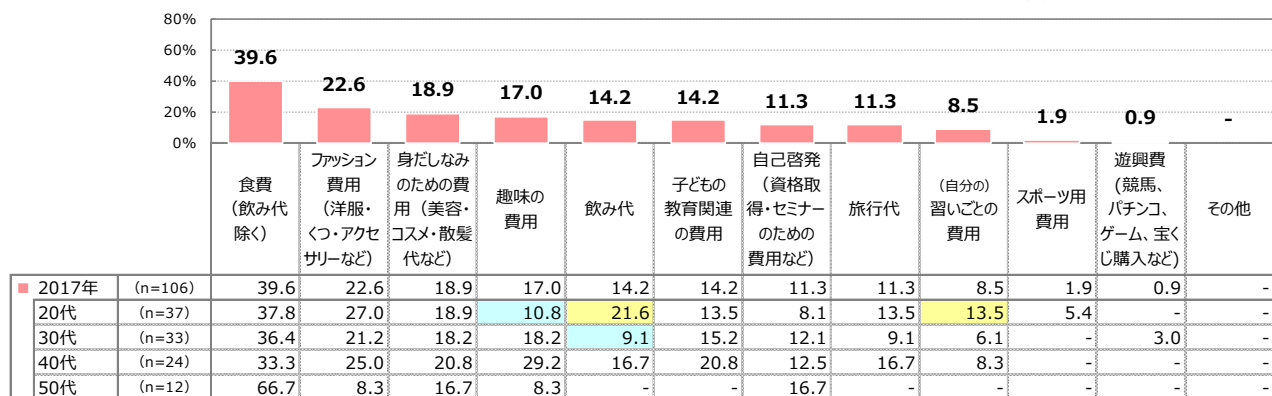


**支出が増えたもの**

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものがありますか。ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

**女性社員**

※支出が増えたものがある方ベース



■全体+10pt. ■全体+5pt. ■全体-5pt. ■全体-10pt

※n=30未満は参考値として掲載



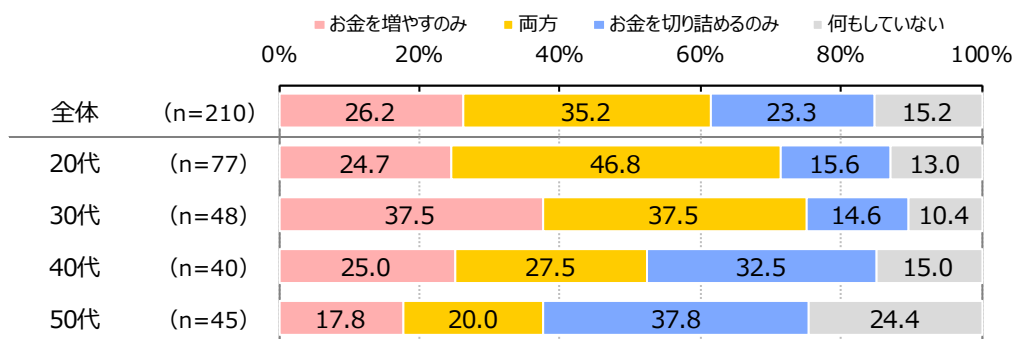
## ■ 支出が増えた分のまかない方

支出が増えた方は、増えた分のお金をどのようにして賄っているのでしょうか。

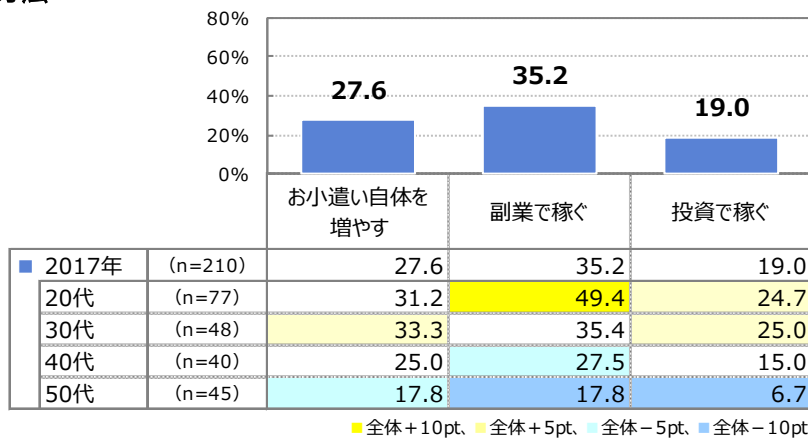
男性社員における、支出が増えた分の賄い方は、「お金を増やすのみ」が26.2%、「お金を切り詰めるのみ」が23.3%、「両方」行っている方が35.2%となっており、8割強の方が何かしらの行動をしています。お金を増やす方法では、「副業で稼ぐ」が35.2%で最も高く、若年層ほど高い点が特徴的です。一方、お金を切り詰める方法では、「昼食代」が29.0%で最も高く、「飲み代」23.8%と続くことから、飲食代で切り詰める傾向がみられます。

設問：支出が増えた／増える分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

※働き方改革があったかつ支出が増えたものがある方ベース

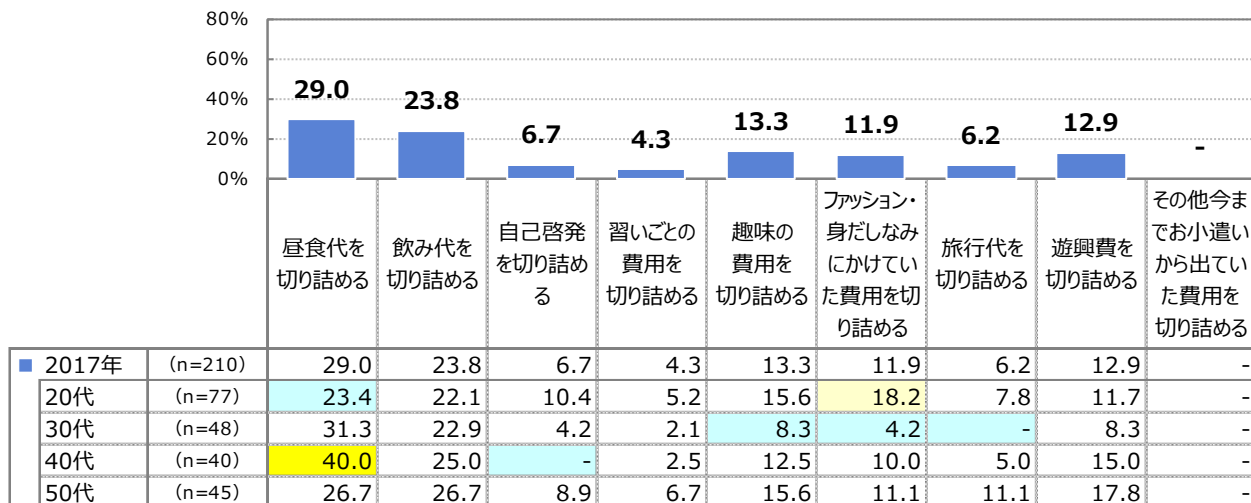
**男性社員**


## ■ お金を増やす方法



■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

## ■ お金を切り詰める方法



■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

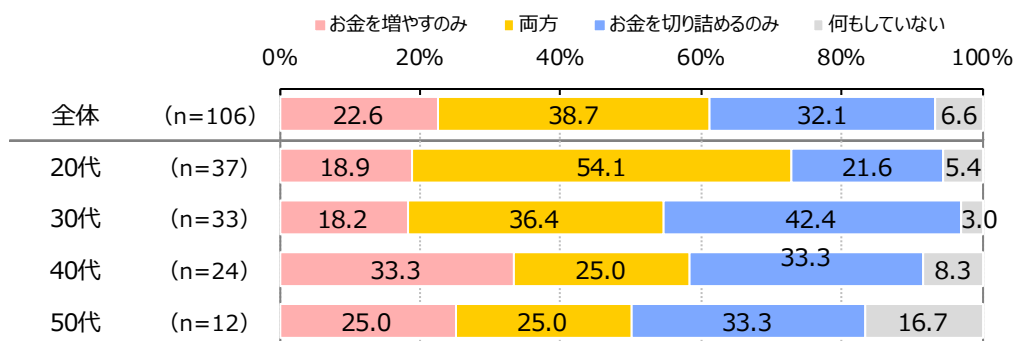
女性会社員では、「お金を増やすのみ」が22.6%、「お金を切り詰めるのみ」が32.1%、「両方」行っている方が38.7%となっており、男性会社員と比較して、「お金を切り詰める」方が多い傾向がみられます。

お金を増やす方法は、「副業で増やす」が32.1%と最も高く、20代で高い点において男性会社員同様の結果となっています。一方、お金を切り詰める方法は、「昼食代」が48.1%で最も高く、「飲み代」(29.2%)と続く点は、男性会社員同様ですが、男性会社員よりも「昼食代を切り詰める」割合が約2倍と高い点が特徴的です。

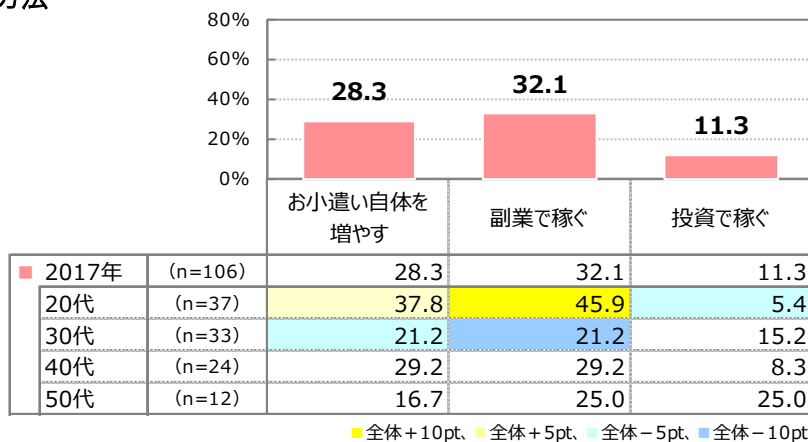
設問：支出が増えた／増える分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

※働き方改革があったかつ支出が増えたものがある方ベース

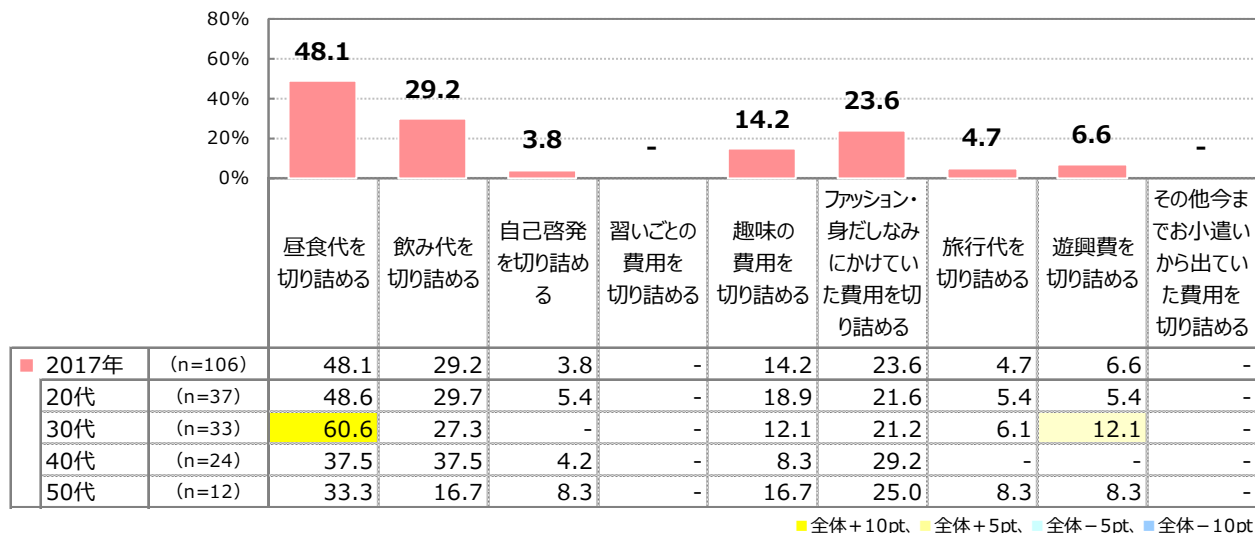
女性会社員



### ■ お金を増やす方法



### ■ お金を切り詰める方法



## 【4】消費税の負担感、経済的なゆとり

- 男性会社員では、消費税に負担を感じる人の割合が71.9%と昨年より2.5%減少するが、依然として高い水準
- 女性会社員では、消費税に負担を感じている人の割合が男性会社員より8.1%高い80.0%
- 『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認した結果、男性、女性会社員ともに「苦しい」層が半数以上を占め、特に女性会社員は「年収低×苦しい」層が最も多く36.5%を占める

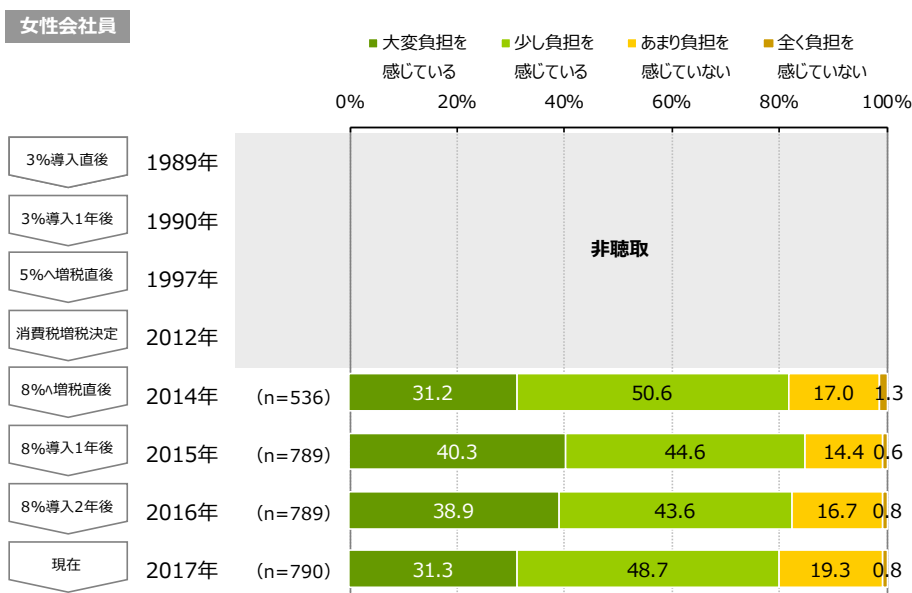
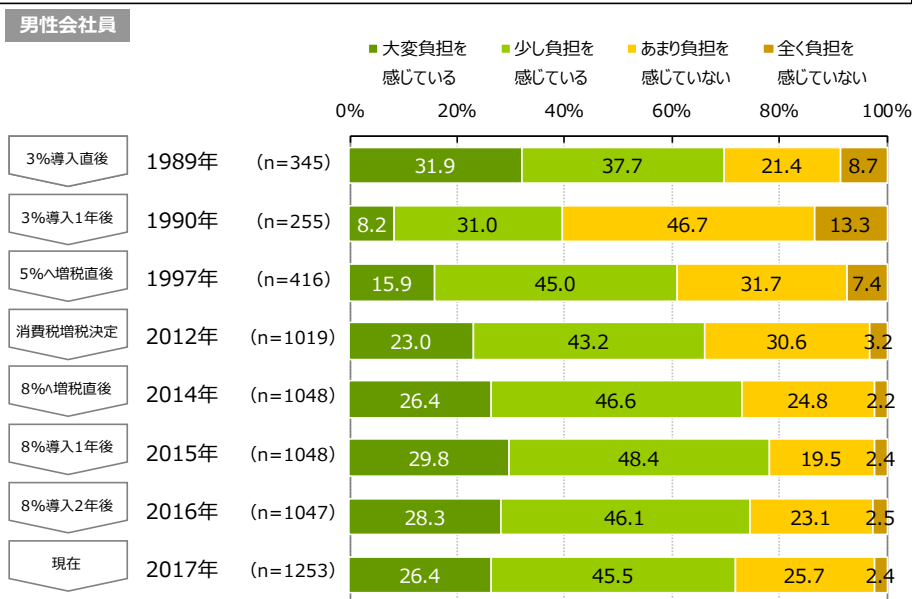
### ■ 消費税によるお小遣いの負担感

2014年4月1日より、消費税率が5%から8%に引き上げられました。増税から3年が経過し、お小遣い面での消費税による負担はどのように変化したのでしょうか。

男性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が71.9%と、昨年より2.5%減少していますが、依然として高い水準となっています。

女性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が80.0%と、昨年より減少しているものの、昨年同様、男性会社員よりも負担に感じている方が多いようです。

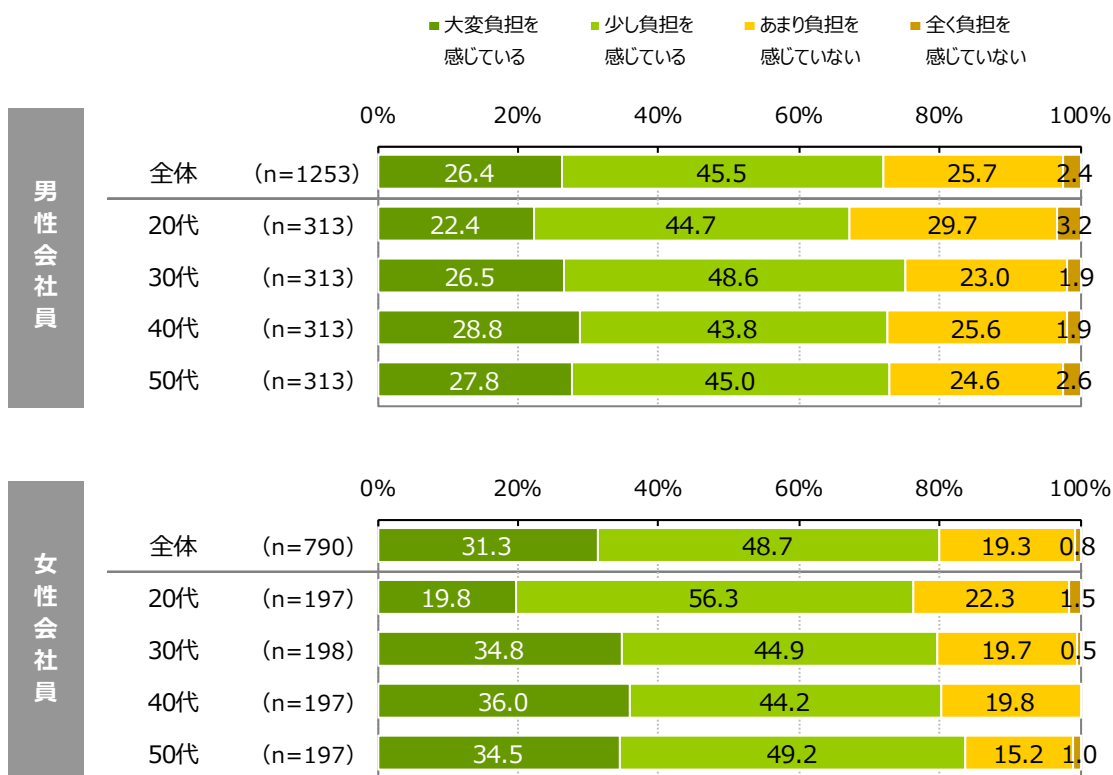
設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。



男性社員における消費税の負担感を、年代別にみると、「大変負担を感じている」層が20代で低くなっています。

女性社員でも、男性社員同様、「大変負担を感じている」層が20代で低くなっていますが、男性より「少し負担を感じている」層が多い点が特徴的です。

設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。



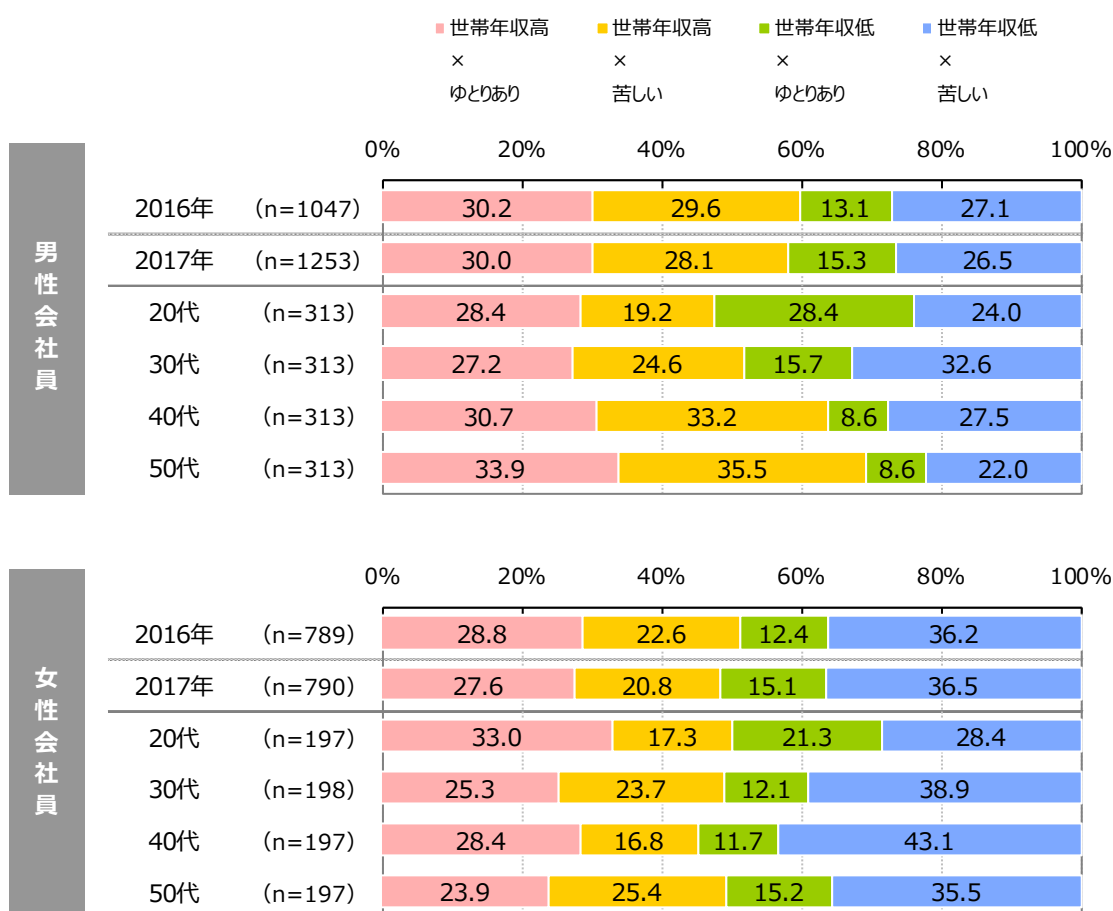
## ■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、昨年同様「世帯年収低×ゆとりあり」層が15.3%と最も少なく、他3層はいずれも3割程度を占めています。年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が28.4%と、他の年代よりも高くなっており、未婚率の高い20代は、世帯年収が低くても、ある程度ゆとりを持って生活できていることがわかります。一方で、年代が上がるほど、「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が36.5%とボリュームゾーンになっており、男性会社員に比べて生活逼迫感を感じている層が多いのが特徴的です。年代別にみると、男性会社員ほどの違いはみられませんが、若年の方ほど「世帯年収低×ゆとりあり」が多くなっています。

設問：“おこづかい”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

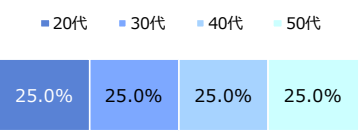
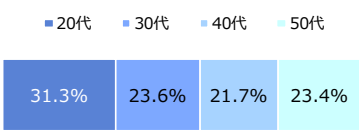
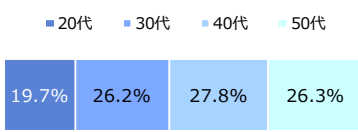
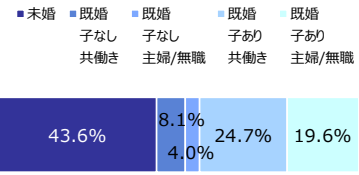
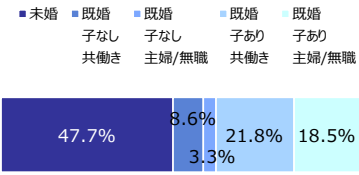
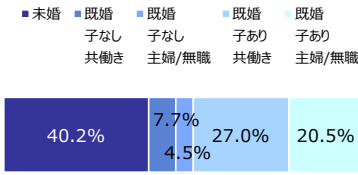


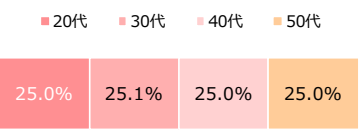
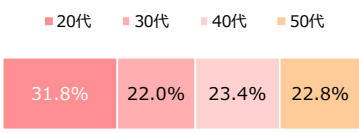
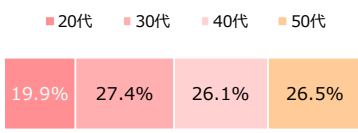
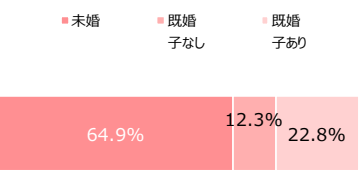
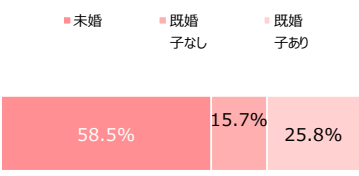
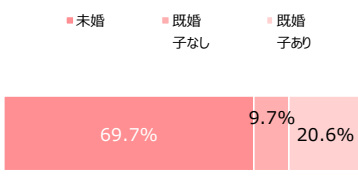
## ■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを以下に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体に比べて、個人年収は42万円、世帯年収では73万円高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、20代以外がやや多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」も、男性会社員同様、20代がやや多く、個人年収、世帯年収ともに高い結果となっています。

	男性会社員 全体 (n=1253)	ゆとりがある層 (n=569)	ゆとりがない層 (n=685)
年齢			
年収	個人年収 <b>505</b> 万円 世帯年収 <b>637</b> 万円	個人年収 <b>547</b> 万円 世帯年収 <b>710</b> 万円	個人年収 <b>471</b> 万円 世帯年収 <b>577</b> 万円
家族構成			

	女性会社員 全体 (n=790)	ゆとりがある層 (n=337)	ゆとりがない層 (n=453)
年齢			
年収	個人年収 <b>309</b> 万円 世帯年収 <b>574</b> 万円	個人年収 <b>353</b> 万円 世帯年収 <b>693</b> 万円	個人年収 <b>276</b> 万円 世帯年収 <b>484</b> 万円
家族構成			

## 【6】お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が51.2%、「趣味の費用」が28.2%、「飲み代」が28.1%。女性会社員は「昼食代」が46.6%、「身だしなみのための費用」が43.9%、「携帯電話代」が37.2%
- ▶ 男性会社員の76.8%、女性会社員の89.7%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は男女ともに「昼食費を安くする」がトップ
- ▶ 男女とも2割弱は副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均42,041円に対し、女性会社員は平均13,463円と金額に3万円弱の差がある

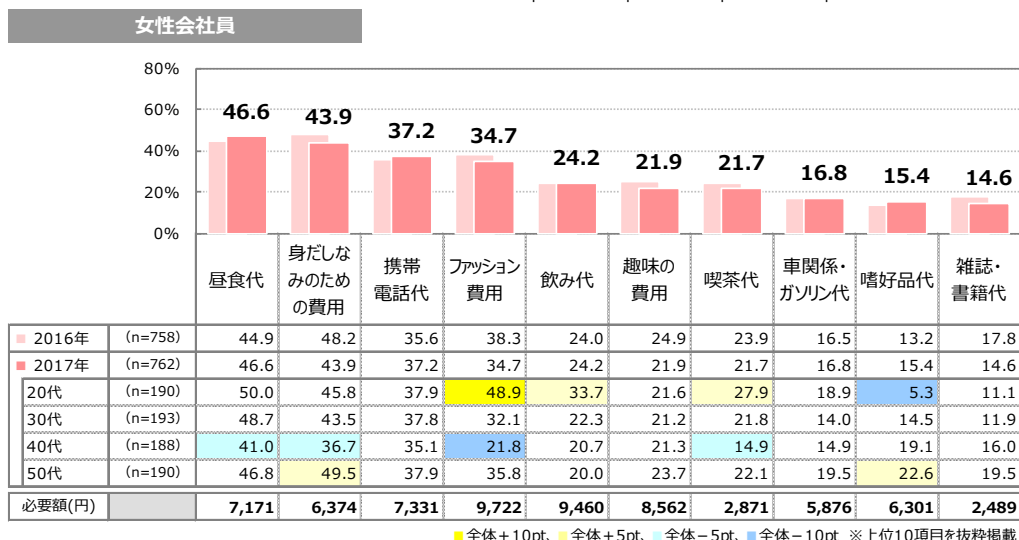
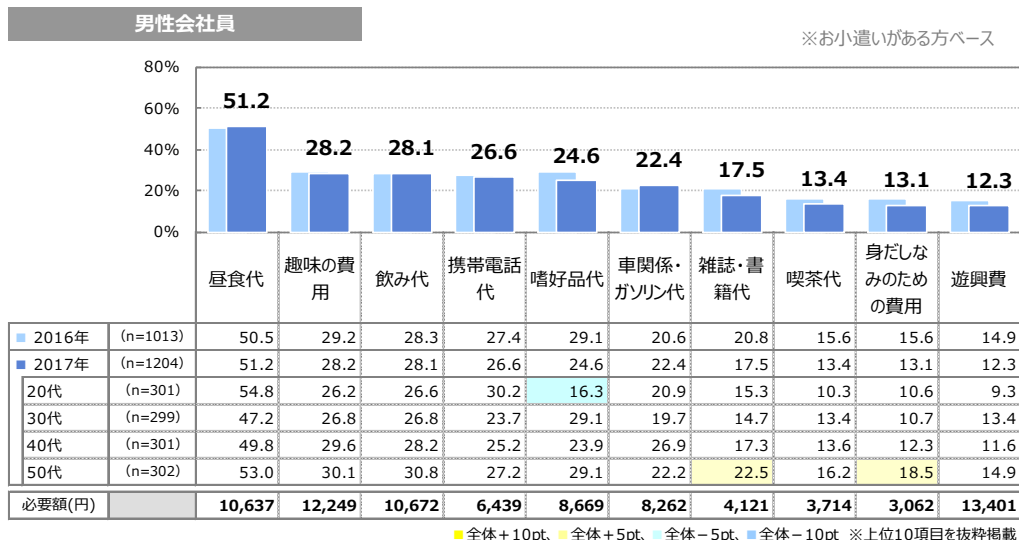
### ■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が他項目に比べて20%以上高く、昨年同様トップとなりました。「昼食代」の必要額は平均10,637円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては10番目に高い「遊興費」となっています。また、昨年と比べると、「嗜好品代」の項目順位が2番目から5番目以下に下がっている点が特徴的です。

女性会社員は、男性会社員同様、「昼食代」が46.6%で最も高いものの、以下「身だしなみのための費用」、「携帯電話代」、「ファッション費用」が続きます。必要額が最も高い項目は、「ファッション費用」で9,722円という結果となりました。

設問：あなたの“おこづかい”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？  
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



## ■ お小遣いのやりくりと節約術

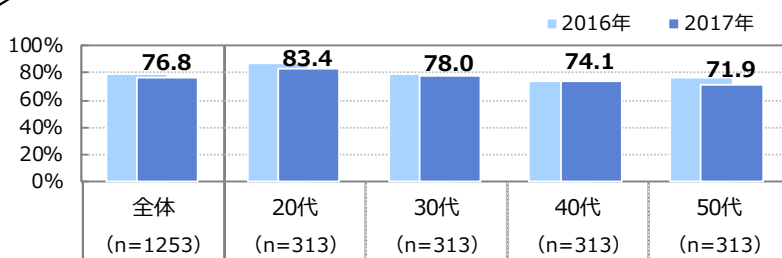
男性社員における、お小遣いのやりくり実施率は76.8%と、比較的多くの方が、何かしらの節約策を実行していることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「弁当を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっています。

女性社員におけるやりくり実施率は、男性社員よりも10%以上高く、約9割の方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「弁当を持参する」、「水筒を持参する」といった、オフィスでの飲食に関する節約策が上位に挙げられます。また男性社員と比べて洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、“おこづかい”面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

### 男性社員

#### <やりくり実施率>



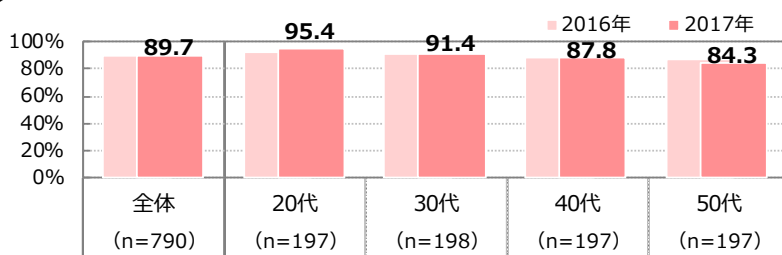
#### 具体的なやりくり術

	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	4位 (%)	5位 (%)
昼食費を安くするように努力している	35.2	38.3	33.5	36.1	32.9
外で飲む回数を減らしている	24.2	26.2	26.2	20.8	23.6
弁当を持参するようにしている	22.6	28.1	23.3	20.1	18.8
水筒を持参するようにしている	22.0	22.0	24.3	25.6	16.0
衝動買いをしないようにしている	21.7	22.4	21.1	21.7	21.7
タクシーなどに乗らないようにしている	18.1	20.1	15.3	17.3	19.5
少し遠くても歩くようにしている	18.1	19.8	17.3	18.2	16.9
ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている	16.8	11.2	16.6	19.8	19.5

※上位8項目を抜粋掲載

### 女性社員

#### <やりくり実施率>



#### 具体的なやりくり術

	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	4位 (%)	5位 (%)
昼食費を安くするように努力している	45.0	43.1	51.0	47.2	38.6
弁当を持参するようにしている	43.7	48.2	43.9	46.2	36.5
水筒を持参するようにしている	36.8	39.1	38.9	37.6	31.5
洋服・靴など、安いものを買うようにしている	33.8	39.1	30.8	32.0	33.5
衝動買いをしないようにしている	31.6	27.4	33.3	32.5	33.0
洋服・靴などを買わないようにしている	30.0	27.9	30.3	28.9	33.0
タクシーなどに乗らないようにしている	26.0	28.4	21.2	28.9	25.4
ネット通販やバーゲンなどで価格が安いものを買うようにしている	25.7	25.4	27.8	21.3	28.4

※上位8項目を抜粋掲載



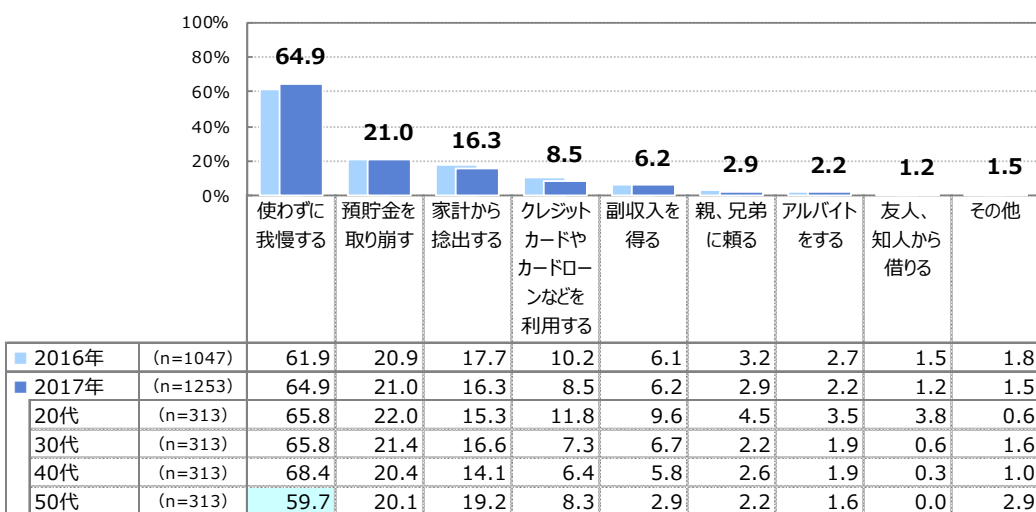
## ■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が64.9%で突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続き、昨年同様、手持ちのお金で対応するケースが多いようです。年代別にみると、「使わずに我慢する」は、50代で低くなっている点が特徴的です。

女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が61.1%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点も共通していますが、男性より手持ちのお金で対応する意識が強くみられます。

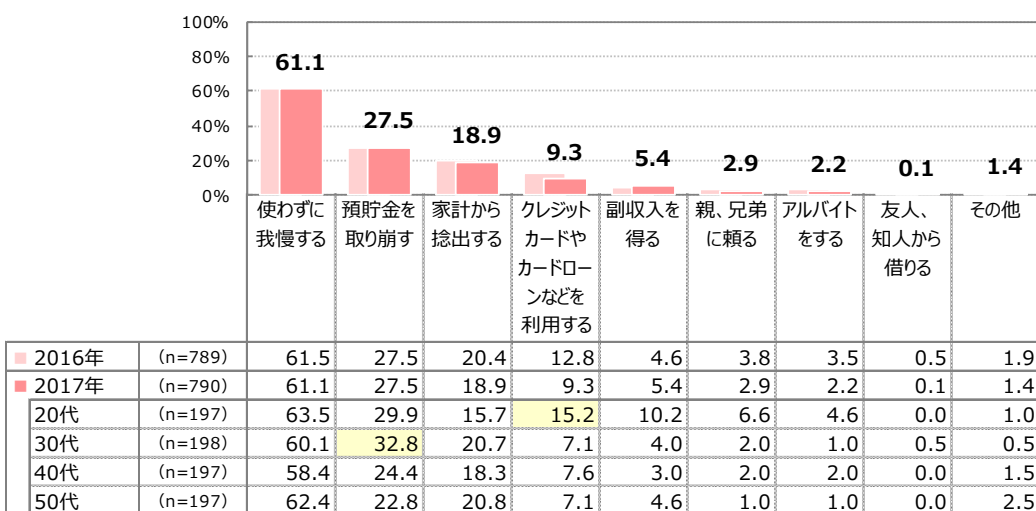
設問：“おこづかい”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

### 男性社員



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

### 女性社員



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

## ■ 副収入事情

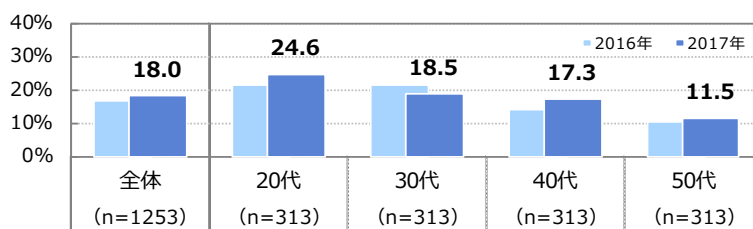
男性会社員の18.0%は副収入があり、1ヵ月あたりにおおよそ4万円台前半の収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が56.9%と最も多く、「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別に見ると、副収入を得ている割合は、若年層ほど高い傾向がみられます。ただし、副収入額をみると、年配層ほど高くなっており、40代・50代において「不動産投資」の割合が多いことが起因していると推測できます。

女性会社員も、男性会社員とほぼ同様の傾向ですが、収入源における「ポイント・アンケートサイト」の割合が70.1%と高い点が特徴的です。また、男性会社員と比較して副収入額は低い傾向にあります。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？  
どのような方法で副収入を得ていますか？

### 男性会社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

#### 1ヶ月当たりの副収入額

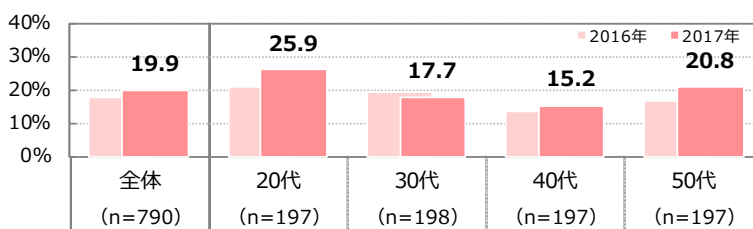
年代	1ヶ月当たりの副収入額
全体 (n=223)	42,041円
20代 (n=77)	16,292円
30代 (n=58)	17,297円
40代 (n=53)	39,266円
50代 (n=35)	143,894円

収入源	割合 (%)				
	全体	20代	30代	40代	50代
ポイントサイト、アンケートサイト	56.9	64.9	62.1	57.4	30.6
株式投資	24.4	24.7	20.7	29.6	22.2
アルバイト・副業	20.0	15.6	20.7	18.5	30.6
不動産投資 (売買収益、賃貸収入など)	10.2	7.8	5.2	9.3	25.0
ギャンブル (パチンコ、競馬、競艇など)	8.9	10.4	10.3	5.6	8.3
ネットオークション	8.4	5.2	8.6	9.3	13.9
FX等の外国為替取引	8.0	7.8	13.8	3.7	5.6
ブログ、ホームページなどの開設による広告収入	4.9	10.4	1.7	3.7	0.0

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位8項目を抜粋

### 女性会社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

#### 1ヶ月当たりの副収入額

年代	1ヶ月当たりの副収入額
全体 (n=156)	13,463円
20代 (n=50)	8,556円
30代 (n=35)	12,154円
40代 (n=30)	15,200円
50代 (n=41)	19,295円

収入源	割合 (%)				
	全体	20代	30代	40代	50代
ポイントサイト、アンケートサイト	70.1	84.3	74.3	60.0	56.1
アルバイト・副業	24.2	15.7	8.6	46.7	31.7
フリーマーケット	15.3	25.5	11.4	6.7	12.2
ネットオークション	13.4	9.8	17.1	10.0	17.1
株式投資	12.7	3.9	20.0	13.3	17.1
懸賞	5.1	5.9	5.7	3.3	4.9
ブログ、ホームページなどの開設による広告収入	2.5	0.0	8.6	0.0	2.4
FX等の外国為替取引	1.9	0.0	5.7	3.3	0.0

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位8項目を抜粋

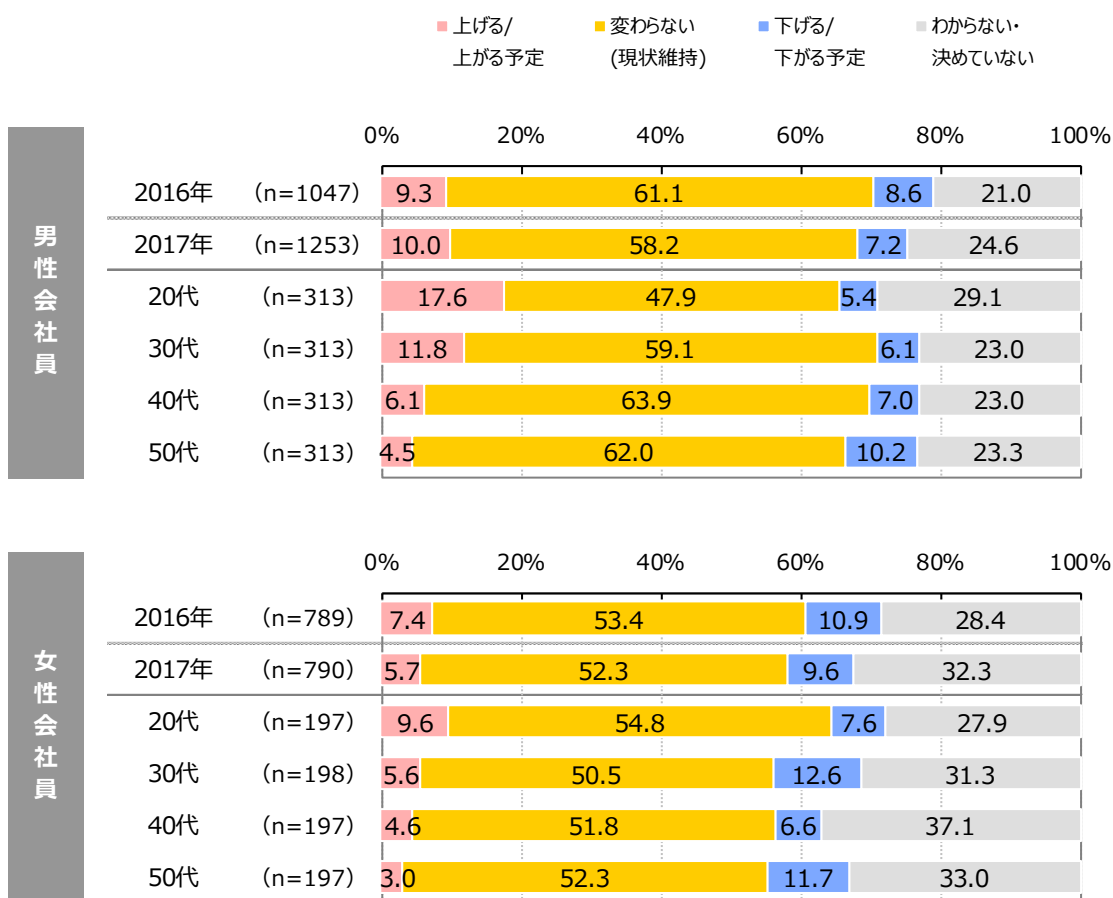
※インターネットサーチを行っているため、「ポイントサイト、アンケートサイト」が高くなっています。

## ■ お小遣いアップの可能性

男性社員における、今後のお小遣い額の予定は、「変わらない(現状維持)」が58.2%を占めます。「上げる/上がる予定」は10.0%、「下げる/下がる予定」は7.2%と、いずれも1割以下で、変動がある層は限定的です。年代別にみると、若年の方ほど「上げる/上がる予定」、年配の方ほど「下げる/下がる予定」が高くなる傾向にあります。

女性社員も、男性社員とほぼ同様の傾向で、変動のある層は限定的です。ただし、「下げる/下がる予定」は、30代で最も高くなっています。

設問：あなたの“おこづかい”は、今後アップする可能性がありますか？



## 【7】 サラリーマンの給与管理状況

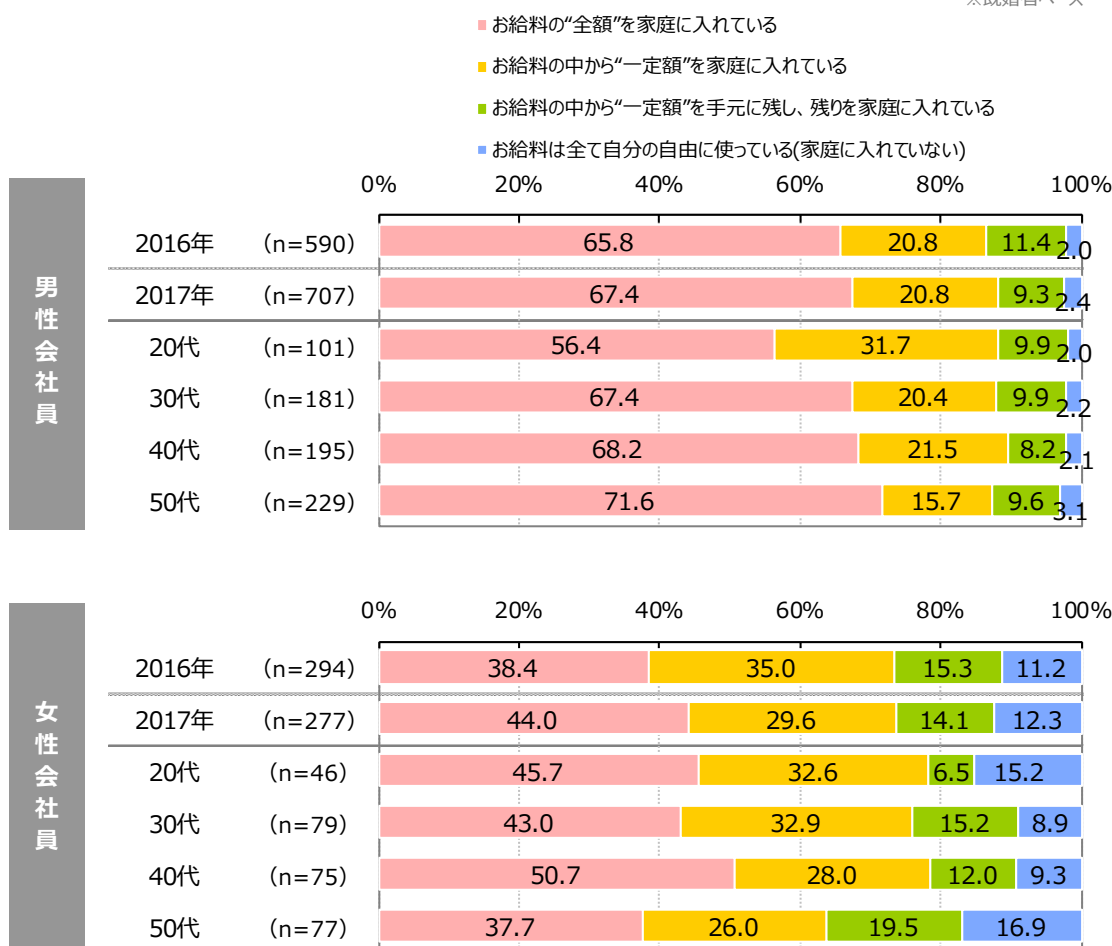
- 既婚男性社員の3人に2人(67.4%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は56.4%と他世代に比べて低くはあるが、若い世代にもお小遣い制が浸透しているという結果に
- 給与の全額を家庭に入れている男性社員は全体で約7割で、お小遣い制の世帯がメイン
- 女性社員の既婚世帯は、男性社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低く44%ほど

### ■ 給与管理状況

男性社員の既婚世帯では、3人に2人(67.4%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、多くがお小遣い制であることが分かります。女性社員では、男性に比べて全額を家庭に入れている割合は低く、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」、「お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入れていない)」世帯がやや多くなっています。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

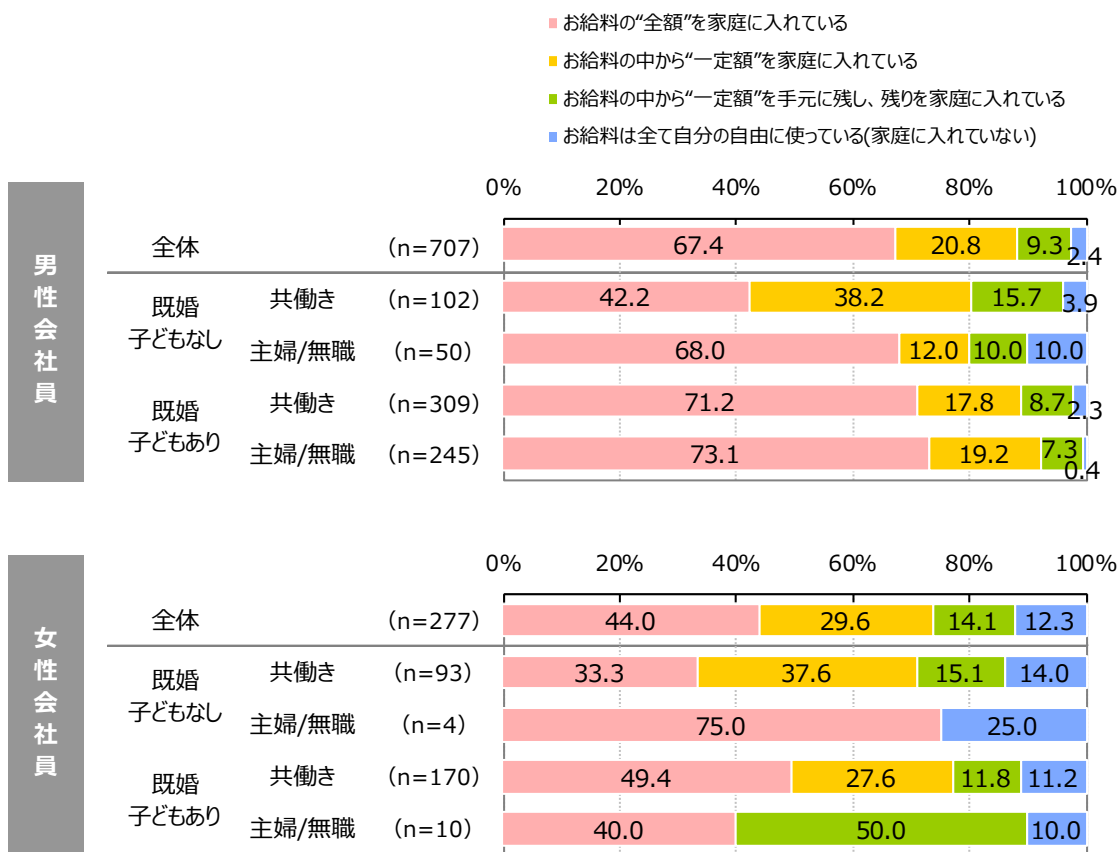


男性社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」が38.2%を占め、全体よりも高い傾向にあります。また、子どもがいない世帯よりも子どもがいる世帯のほうが、「お給料の“全額”を家庭に入れている」が高くなっています。

女性社員では、男性社員と比較して、DINKS世帯は男性社員と同様に「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」割合が全体よりも高い傾向であるのに対し、既婚・子どもあり・共働き層で、「お給料の“全額”を家庭に入れている」が低い点が特徴的です。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

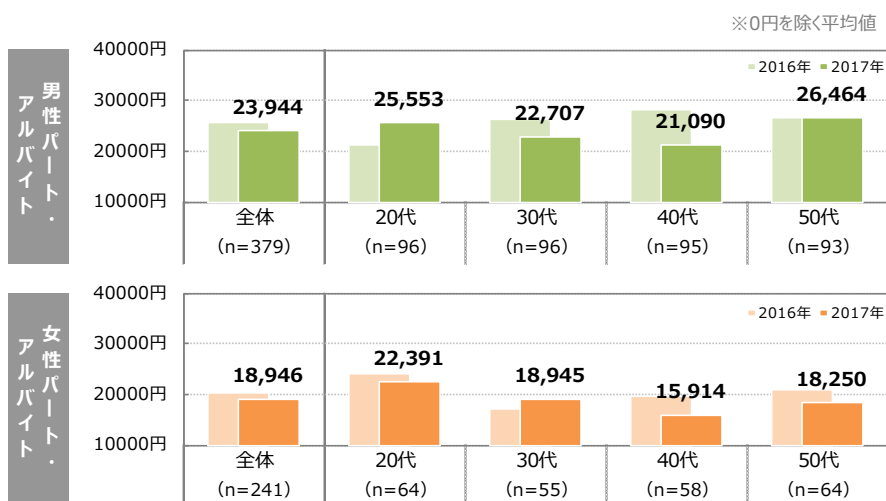


※n=30未満は参考値として掲載

## 【8】パート・アルバイトの基本データ

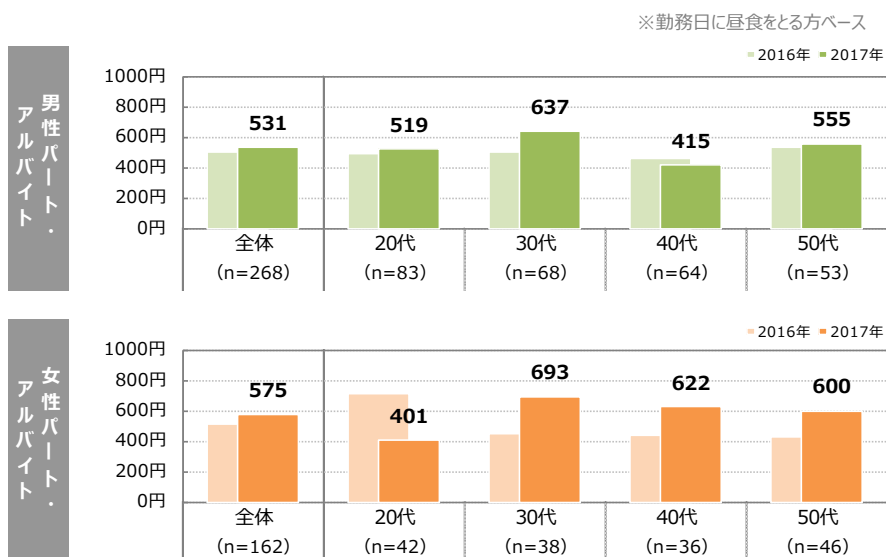
### ■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



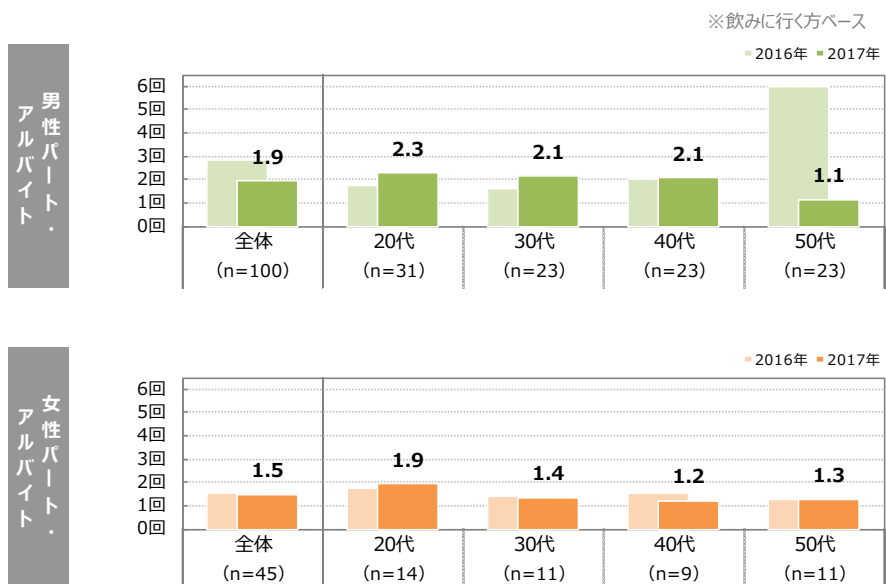
### ■ 昼食事情

1日の平均昼食代



### ■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

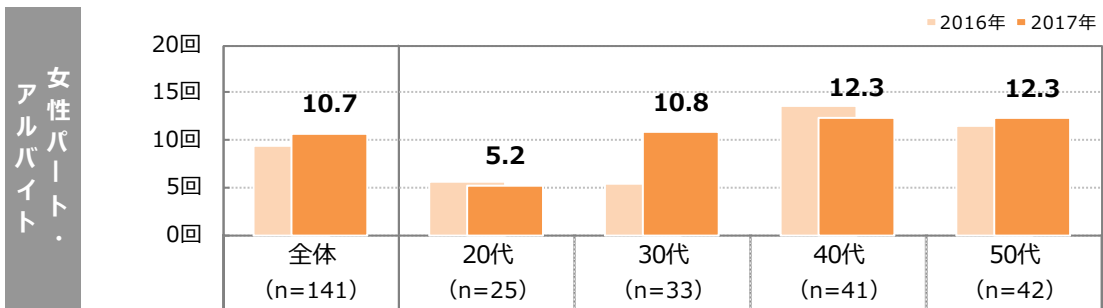
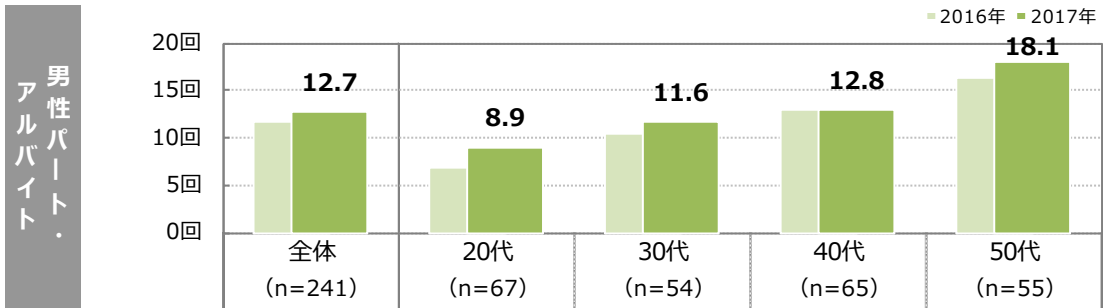


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の家飲み回数

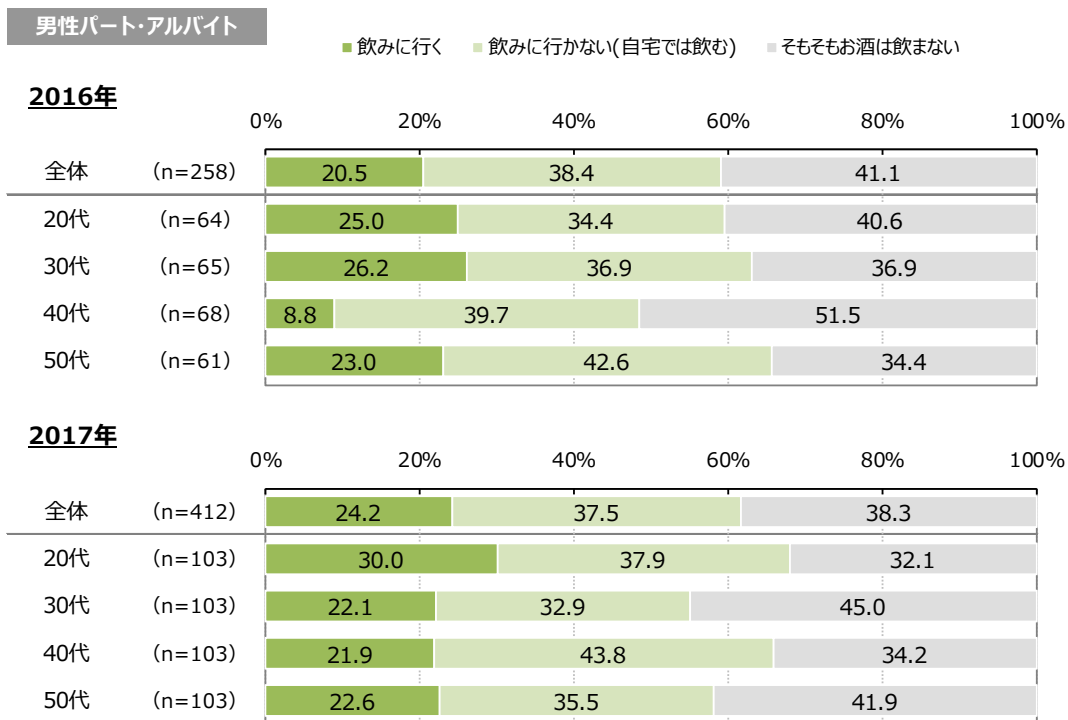
※自宅で飲む方ベース



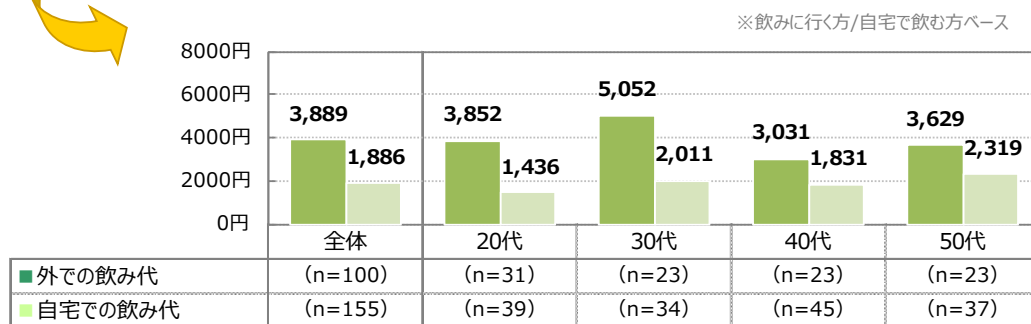
※n=30未満は参考値として掲載

## ■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



### 1回の平均飲み代は・・・？

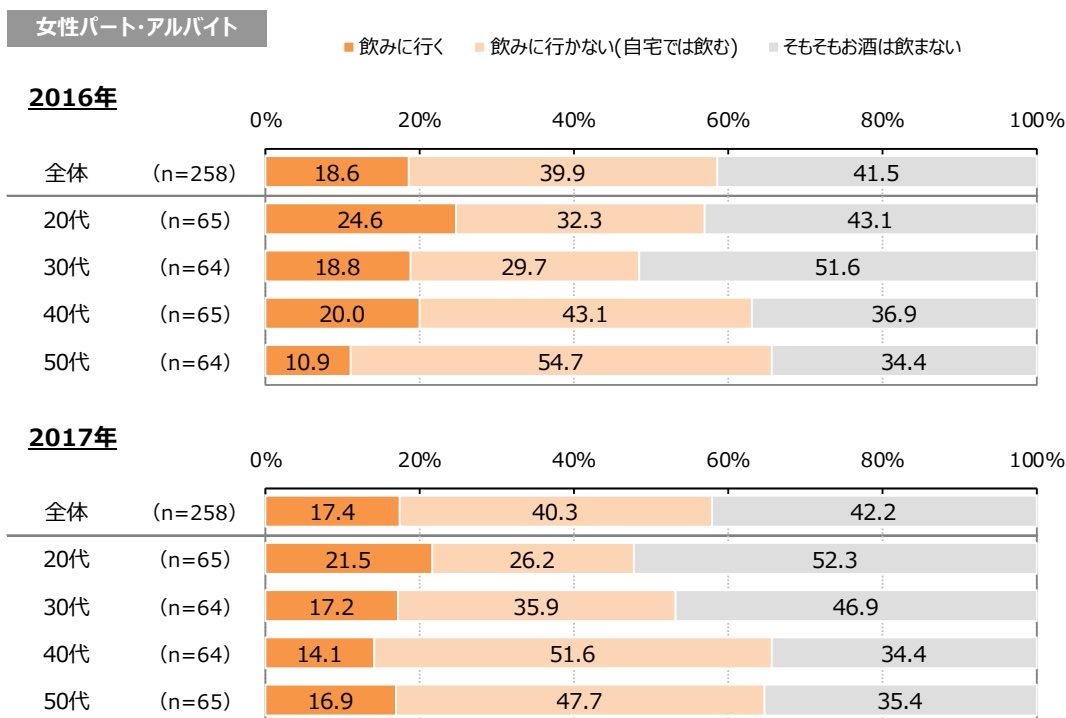


※n=30未満は参考値として掲載

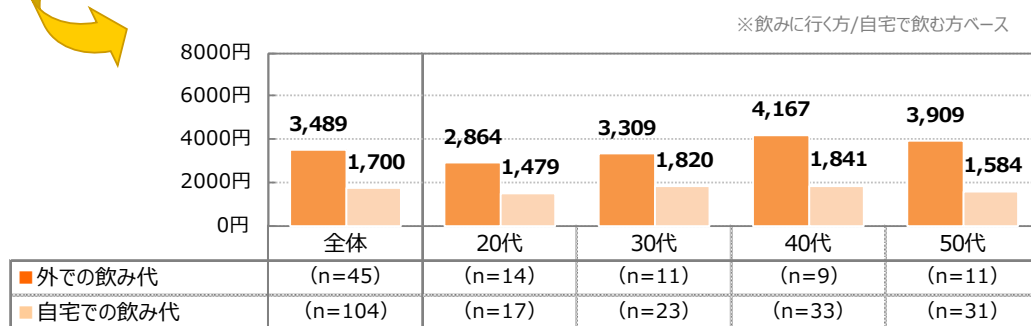


## ■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



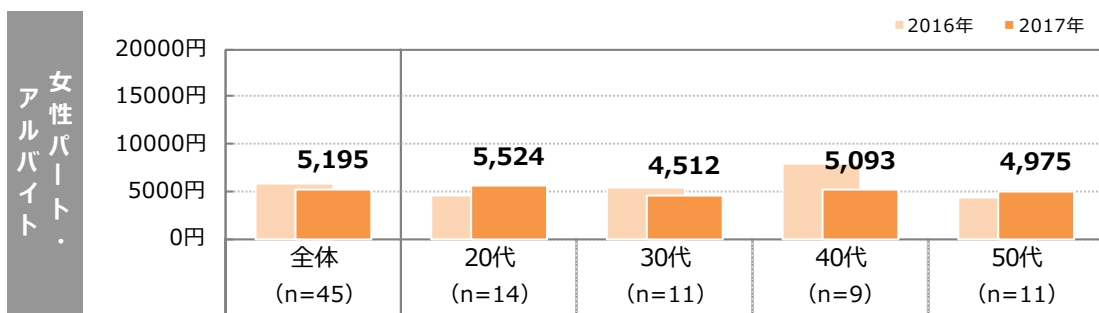
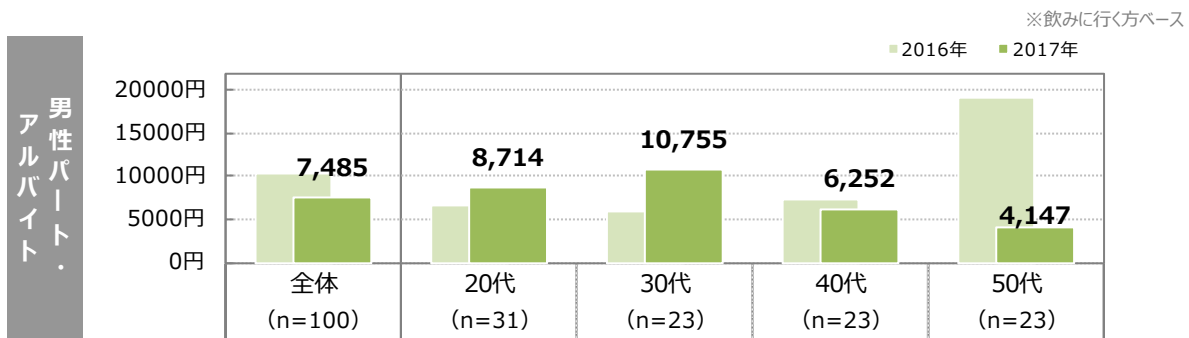
### 1回の平均飲み代は・・・?



※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1ヵ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載